

## 第8回 文京区保育ビジョン策定検討委員会 議事録

日 時 平成19年2月23日(金) 午後7時10分から午後9時45分

会 場 シビックセンター24階 第2委員会室

### 議事次第

1. 開会あいさつ
2. 「最終報告」の取りまとめについて
3. その他

### 出席者

汐見稔幸会長、萩原久美子副会長、佐々木陽穂委員、大川米子委員、深谷純子委員、菅原良次委員、飯田恭委員、安達陽子委員、高橋修平委員、高橋万由美委員代理、森吉弘委員代理、久武昌人委員、藤田くる美委員、安江とも子委員、大角保廣委員、根岸かをる委員、吉田シズ子委員

### 議事録

(保育課長) これより、第8回文京区保育ビジョン策定検討委員会を開催させていただきます。本日は、こちらの第2委員会室を使用しての開催になりますので、マイクは前回と同様、手前のボタンを押してご発言をいただいて、ご発言の終了後にお切りいただくという形をお願いいたします。

それでは、汐見先生よろしくお願ひいたします。

(会長) それでは、こんばんは。だんだん詰まってきて、今日は事務局案という形で、私も個人的に非常に忙しい時期だったものですから、今日の提案づくりに十分参加できなかったのですが、事務局でこれまでの意見を全部取り入れて作成していただきました。

今日は、お手元にお配りしている分厚いものですが、その冊子のポイントを説明していただいて、最終的な報告書にどういうふう仕立て上げていくのかということについて、集中した議論を行いたいと思いますので、よろしくご協力のほどをお願いします。

それでは、事務局から、お配りいただいた資料について説明していただきたいと思います。

(保育課長) 資料第25号がかなりボリュームがあるので、庁内の印刷機で印刷をかけていますが、ちょっと遅れています。資料のご確認だけ先にさせていただきます。まず次第の後に、資料第25号、右肩に「文京区保育ビジョン策定検討委員会報告書」となっているものです。こちらは左とじになっています。こちらだけではなくて、参考資料というのも最終報告の中には付けようと考えております。今、別で印刷をかけてございますので、しばらくお待ちいただいて、後ほど席上に配らせていただきたいと思いますと考えてございます。

それから、第26号といたしまして、高橋万由美委員代理の方から、「文京区保育ビジョン策定検討委員会第8回 2006年まとめに向けて 議論のタタキ台 父母案」というものをご提案いただいています。

その次に、同様に高橋万由美委員代理から、追加資料をいただいております。それから参考資料といたしまして、「施策のための具体案取り組みの事例」ということで、藤田くる美委員の

方からいただいたものが付いてございます。

それでは、今回中心的に議論をいただきます報告書について、事務局から概括的なご報告をさせていただきます。お手元の資料第 25 号、左とじ 2 か所のものをご覧いただければと思います。なお、1 ページについては、お手元にお配りをいたしましたものと差し替えていただいて、お読みいただければと思います。

こちらについては、報告書の体裁をイメージいただくような形につくってございます。冒頭おめくりいただきますと、区長からの検討依頼についての報告であるということ。それから次のページについては、「はじめに」ということで、これから会長にごあいさつをいただいて、今回検討いただきました経過について概括的にお示しをし、ここに最新のまとめを作成いたしましたということを入れさせていただきます。

おめくりいただきまして、見開きのところで目次を入れてございます。前回、中間のまとめから最終のまとめに関しては整理をするということで、施策レベルのものについてはある程度四角くくりで整理をすること。そして、「はじめに」と第Ⅰ、第Ⅱ、第Ⅲ、第Ⅳについては、もう少し言葉を加えて膨らませていくこと等が前回の委員会で確認をされましたので、事務局としてその方向で検討を進め、今回ご提案を申し上げる次第でございます。

おめくりいただきまして、1 ページ、2 ページ、こちらからが本文になってございますので、ページを振ってございます。先ほどもありましたように差し替えていただきたいと思っておりますけれども、「保育ビジョン策定の基本的な考え方」、これについては中間のまとめでは「はじめに」に書いてあったものを、ここに第Ⅰとして、若干文章を短くして載せてございます。

それから、「文京区保育ビジョンにおける対象領域」。保育ビジョンにおける保育とはどういったものかということと、思春期へと至るまでの重要なステップである就学前の子どもたちに焦点を合わせたということ。さらに、差し替えの方をお読みいただければと思いますけれども、今回幼稚園での検討がどうなのかというご指摘もありましたので、差し替えた部分を読ませさせていただきます。

まず、低年齢児童の保育と育ちの視点から検討を進め、今後、思春期までの子どもの育ちに必要な幼稚園、小学校、社会教育と接合されることが大事だと考えています。なお、幼稚園、小学校での教育については、政府レベル、文京区レベルでも検討が行われており、今回は保育の機能を中心に検討しています。ということで、この対象領域についてより明確にしてお示しをしているものでございます。

それから、中間のまとめでもご確認いただきましたように、「保育ビジョンの位置づけ」については変更を加えてございません。就学前の子どもに係る分野の基本理念・基本目標を示すということと、今後、文京区子育て支援計画等の具体化及び計画の見直しの際の基本指針とする、という位置づけでございます。

それから、Ⅳでは「保育ビジョン作成の背景」について記入をいたしました。ここについては、グラフ等を入れて、分かりやすくをモットーに作成したものです。1 つは、「少子化の進行」。それから、「子育てを負担に感じる方の増加」ということで、今回、ご提案いただいている資料第 26 号についても、最終的なまとめについての資料ということでしたので、こちらからも反映をさせていただいたか所が数か所ございます。例えば「また」以下については、こちらのご提案の中から引用をさせていただきました。

3 ページ、4 ページについては、抜粋の資料が分かりやすいようにということで、資料第 26 号の 9 ページ、そして 8 ページのパワーポイント作成のものについて引用をさせていただいてござ

います。

2 ページは、「子育てを負担に感じる人の増加」を、子育て世帯の孤立化と併せて膨らませた記述をしたこと。そして、「就労支援の充実の必要性」ということでは、ご指摘の中の女性の就労意識と労働力率の悪化ということ、ここの中に盛り込ませていただいたものでございます。

4 ページになりまして、「多様な家族支援が必要となってきたこと。これは、すでに後ろの、後ほどお配りいたします資料にも載せてございますが、子ども家庭支援センターにおける児童虐待に関する相談者数の推移を、ここに掲載をいたしました。

そして 4 ページの最後ですけれども、(5)「文京区における子ども・子育て関連施策の実施経過」。これが冒頭に来ていたわけですが、文京区でやっていることよりも、現状のことをきちんと先に述べた方がいいであろうということで整理をいたしました。

おめくりいただきまして、5 ページ、6 ページが、今回ビジョンをくくる形で「文京区がめざす将来像」。ここについては、資料第 26 号の中でもスローガンとして、「子どもたちが豊かに育つまち、明るく子育てができるまち」をご提案いただき、区民意見の中にも、明るさをもう少し全面に出してもいいのではないかとというようなご指摘をいただきましたので、このところで活用させていただいているところです。

この中では、若干 Vision1、Vision2 の間に言葉を加えさせていただいております。すべての子どもたちがのびのびと育ち、自立した大人へと成長していくことが私たちの願いであること。そして、その子育てを取り巻く環境が変化し、厳しいものになっているといっても、本来子育ては無数の喜びと、将来の希望に満ちた営みであるはず。こうした子育て本来の楽しさ、大変さの中にも充実感があるということを書き込んでみました。

そして、子どもを育てる人々が子育ての楽しさを実感することができること。そして、地域に暮らす人々が子どもと子どもを育てる人々を同じ温かいまなざしで見守って、応援するまちをめざすことによって、子どもの育ちを保障していくことが必要であろう、ということを入らせていただきました。

ではこの中から文京区の将来像をどうするのかということについて、一人ひとりの子どもの育ちを第一に考える社会であるとか、安心して子どもを産み育てることができる社会、地域ぐるみで子育てを応援する社会、といった将来像を掲げ、その具体的な方向性として、Vision1 から 4 の 4 つの方向性を示すというつくりにしてございます。

中間のまとめでは、ビジョンについて 2 つの項目、目標と将来像に分けていたわけですが、将来像について分かりやすさを中心として 5 ページ、6 ページにまとめてお示しをしております。

おめくりいただきまして 7 ページ、8 ページです。こちらについては、目標の中で、施策のための具体案、より具体的な施策であるとか具体的な取り組みについては、この四角の中にくくらせていただきました。また、四角の中の文言の中で、例えば医療のあっせんといったような言葉ですとか、そういった法的には若干使わない言葉等については、整理をさせていただいております。ただ、基本的には中間のまとめでご指摘いただいた部分を活かすような形で、そのまま四角の中に残し、そして基本的な目標等については、そのまま入れ込むというような形で整理をさせていただきました。

Vision1 については、すでに皆様、中間のまとめから何度もご案内いただいているような形でまとめてございます。13 ページまでが Vision1、14 ページからが Vision2「子育て支援・親の支援」になっております。Vision2 についても、同様の視点から作成をしております。こちらに

については、すでに確認をいただいている部分だと思しますので、事務局の方からは少し飛ばさせていただきますが、19 ページに Vision3 を、そして 21 ページに Vision4 「保育機能の中核としての保育園」を入れさせていただきます。こちらの保育園については、かなり施策レベル等々の指摘があったものですから、この四角の中に、こういった施策のための具体案ということでとりまとめをしたものでございます。

おめくりいただきまして 25 ページ、26 ページになりますが、「保育の機能を高めるための方策」については 3 つ、「必要な人員の確保と質の向上」「新たな子育て支援の役割を担う体制の強化」「受け入れ体制の整備」についての項目を残し、より具体的なものについては四角の中での提案ということにさせていただきました。

27 ページの「その他長期的な視点から慎重に検討したい項目」ということについては、具体的な案ということと、それから保育園のクラスの人数を減らすということで、27 ページについては、クラスサイズは保育を充実させている諸外国に比べるといった、より適切な表現に直してございます。

28 ページ、29 ページを、第 VII 章「保育ビジョン実現の推進に向けて」としてとりまとめております。

ただ今事務局の方から配らせていただきました左とじのクリップ留めのものが、この全体の報告書の後に、参考資料としてお付けするものです。イメージとしては、一体の製本になってお配りをするような形になろうかと考えてございます。

なお、この参考資料に、飯田委員がとりまとめているアンケートについては、現段階では入ってございません。また、施策の具体案等については、もう少しボリュームのあるものに最終的にはしていこうと考えているところでございます。

本日、資料第 25 号、そして 26 号等の関連資料について、事務局からの説明については以上でございます。

(会長) それでは、お手元に今、この報告書に添付する資料集、参考資料を配っていただきました。これにさらに、飯田委員が今まとめられているアンケートが付きますので、相当タイトなものになる。しかも、報告書そのものももう少し膨らませたいということになりますので、300 ページぐらいになるのでしょうか。

できる限り文京区の実態を明らかにするためのデータ、それからこの間私たちが議論してきた記録、それからさまざまにアンケートを取っていただきましたその生の声等、これをしっかり読むと、現時点で文京区で子育てをしている人たちがどういう実態にあるのかということが、かなりリアルに分かるようにということで、こういう資料を付けようということでもあります。

そのことを含めて少しご意見をいただきたいと思いますが、どうでしょうか、少し、参考資料は別として、報告そのものにちょっと目を通していただく時間を 5 分ぐらい取りましょうか。まだ十分読んでいないという方がいらっしゃると思いますので、申し訳ございませんが、5 分ぐらいでさっと目を通していただきたいと思います。

先ほどまで、とにかくずっとまだ書き替えていて、それでちょっと遅れていましたので。何バージョンも変わっていますから、今読んでいただいているものが最新のものなので、ちょっとだけ目を通してください。

(団体推薦委員) 修正履歴というか、方向を変えた、そういったものは後で送っていただけですか。

(会長) 要するに赤を入れたところがちゃんと履歴で残るような文章ということですがけれども、

どこがどう変わったかということですね、それはどうしますか。

(保育課長) 今回変わった部分については、すでに赤で入れた部分については黒に、そして二重で線を消した部分については削除、そして赤で新たに加えた部分について、そのまま黒でということにして 25 号としてお示しをさせていただきます。

ただ、新たにご指摘いただいた部分等がありましたので、本日になってその部分を反映させて、変えた部分でございますので。

(会長) 分かりました。要するに資料の提出の仕方として、前回の会議の後にこういうふうに修正したという修正の履歴が分かるような資料という考え方と、それを全部反映させた上で、今の時点でこういう文章になっていると、それをもう一遍検討していただきたいという出し方があると思いますが、今日は後者だと考えて、これが前回までの意見を一応反映した上での現在のプランだとご理解ください。

それでは時間ももったいないので、最初の方から順番にいきたいと思います。はじめに、目次、それから第 1 ページから 6 ページまで、ビジョンに入る前辺りまでのご意見をいただきたいと思っています。

内容にかかわることではなくて、もう少しこういう文章の方がいいのではないかということについては、どんどん後でまたメールで送っていただきたいと思っています。文章をもう少し推敲していくということは必ずやらなければいけません。いろいろなことに配慮をして文書を継ぎ足したところがありますから、文章上はいろいろ行き届かないところがあると思いますが、それよりも内容ですね。

目次のところ、最終的にこういう形で残るものですから、体裁は非常にスマートにしておいた方がいいと思うのですが、今のところまだ、例えば第Ⅳの「保育ビジョン作成の背景」というところには、(1) が抜けていますが、変わっていますね。それから Vision1 のところが、1、2、3 の後、3-1、3-2、3-3、3-4 という形式、ここだけこうなっていますね。ほかはそういうところは全然ないので、ここは形式上の不ぞろいがあるわけです。このところをもう少しきれいに整理できないかと思いますが、これは後で議論していただきますけれども、意外とこれは簡単ではないんです。今の形式だとこういう形になってしまうので、形式そのものも後で議論していただきたいと思っています。

先ほどのご説明では、1 ページの第Ⅱ、対象領域の部分が、皆さんのところに送られた資料に、文章を書き加えた部分です。幼稚園のことについてあまり扱われていないことについてどうかというご意見が届いていて、今回、もともと幼稚園、それから学校教育の放課後とか、そういうところについては議論をしていないわけですから、いまさら取って付けたように付けても無責任ですから、ここは書かない。ただ、そのことについて関心がないわけではなくて、教育の領域の世界にちゃんとつなげてほしいということですね。

それから、幼稚園だとかは今ものすごく大きな制度改革の最中にありますので、それに連動して文京区はどういうプランをつくるのかということをおある程度見通していかなければいけないということもありますので、短い時間では議論しきれないということもあって。ただ、このことはちゃんと頭に置いた上で、このプランとぜひつなげていただきたいということを加えたということです。

3 ページの下は、今日のもう 1 つの、保育園の父母から出された資料に出ていたデータが使われているということですが、文京区の女性労働力率と出生数というのは、出典は何でしょうか。

(団体推薦委員) 上の方は、表は労働経済白書ですが、下の方は文京区の人口データから我々

が拾ったものだと思います。

(会長) 文京区の何から父母連作成、と書いておいた方がいいですかね。

(団体推薦委員) ただ、我々は素人なので、もしかしたら数字の取り方が間違っている可能性があるかもしれないので、ちょっとご確認いただいた方がよろしいかと思います。

(会長) 労働力率というのはなかなか難しいんですよね。文京区そのもののデータ、子どもにかかわるデータというのは参考資料の方にもたくさん載せるわけですから、ここにもう少し載せるということはあるかもしれませんが、バランスの問題もありますので、少し載せておこうという事務局案ですね。

後で加わりました参考資料の中には、もう少し詳しい資料、これはずっと前に我々に配られたものですが、出ています。

(副会長) 同じページに、女性の就労意識の変化というものがあるんですけども、これは平成 18 年労働経済白書となっていますが、もともとの出典があるはずですが、これは？つまり私が思っているのは、これはもしや国民意識調査だったか、3 年おきぐらいか 2 年おきぐらいに行われているものがあって、この数字は、そこで女性が就労することについてどう思うかという国民の意識の変化を取ったものではないかと思うんですね。男女でおそらく異なるので、これは女性の意識なのか、ちょっと不明瞭なので。もしそれでしたら、元データのところから取ってきた方が、男女ともの意識の変化が追えるのでどうかなと思ったのですが、そういう理解で間違いないですか。

(団体推薦委員) この資料そのものをつくったのは別の父母なので、私ではないので確認します。できれば元データの方に当たってみるよういたします。

(会長) 文京区の住民では、このようなことを専門にやっているような人がたくさんいそうですから、ちょっと変な数字を出すとまたいろいろ言われますから。

特になければ、先にいきますが。

(副会長) すみません、細かいことなんですけれども、3 ページでやはり同じように、父母連の方たちにご協力いただいて調査をした調査結果がありますが、もしこれを優先させるのであれば、2 ページの子育てを負担に感じる人の増加というところで、「平成 16 年 3 月の文京区子育て支援に関するアンケート調査では」となっているのは、ちょっと表と文章が合わないの、ここは変えていただきたいかなと思います。

(会長) これは子育てが大変そう、つらいと思ったのはどういうときだというデータですね。文章の方は、子育てに不安や悩みを持つ人が多いことが分かったという後で、自分の時間が取れない、ということですね。でも対応しているのか。

(副会長) たぶん対応していないです。平成 16 年 3 月のアンケート調査ではこうだったとなっていて、ちゃんと文章で値を出していないので。平成 16 年 3 月の文京区子育て支援に関するアンケート調査ではこういうことが分かったと、こういうことが挙げられていると。同時に父母連の方が行われた、ということにした方が。

(保育課長) ワープロがあまり得意ではなく、パワーポイントから入れようとしたときにちょっと入らなかったの、そこのところ切り貼りをしたんです。「また、子育て世帯の状況をみると」というところの 3 行が、これに入っているという思いがありましたので、そこについては記述の仕方を工夫いたします。

そして副会長ご指摘のように、文京区子育て支援に関するアンケート調査についてのデータについても、併せて入れることによって見やすさが増すのかと思っております。了解いたしました。

(会長) それでは、なければ Vision1 に入りたいと思います。7 ページから 13 ページまでが Vision1 です。ちょっと目を通していただいて、この部分だけが全体の中ではページ数も大きいですが。

(公募委員) まず全体のお話と申しますか、結局、また 7 ページとかに戻ってくるんですけれども、まず考えていただきたいのが、「子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障」というテーマ自体は、私自身も賛成なんです。だけど、一番はじめからこの委員会ではそうなんですけれども、必ず何か、いっぱいいっぱいの中で工夫をしようとする、利便性を追求しすぎるとか、必ずそういう言葉になるんですね。こういうふういろいろなことを、例えば 7 ページの 1 番ですけれども、「早寝・早起き」「身体を使った十分な遊び」「生活リズムを確立する」みたいに上から申すような言い方をすると、今現状でがんばっているお母さんたちを追い詰めているような気がするんです。私自身も、委員会に慣れてきて皆さんのお気持ちとかも分かるようになったんですけれども、はじめに、こんなことも、あんなことも、母乳もがんばらないといけないし、メディアからも離さないといけないし、それからあんなことも、こんなことも子どものためにと言われると、「これだけががんばっているのにまだがんばれと言うの？」という、どんどん追い詰められているような気がして。「確立する」じゃなくて、「がんばりましょう」とか、「整えましょう」とか、「努力しましょう」とか、もう少し柔らかい言葉尻の方が、一般のお母さんたちにはすんなり気持ちに入っていくんじゃないかなと思います。

それと 9 ページなんですけれども、(1) の「公園の設備・改良」の施策のための具体案の中の、「公園の一角に、子どもたちが生き生きと遊べるはらっぱ型のスペースを設ける」、それから「公園の遊具は、子どもたちがわくわくできるような、発達・安全を考慮したものを設置」。確かにこれはばらばらの案であるし、はらっぱも必要だし、かつ楽しい遊具も必要というふうにも考えられるんですけれども、こんなふうに書いていると矛盾したように聞こえるような気がするんです。だだっぴろいのがいいよと言ってみたり、楽しい遊具があるといいよというふうに見えるので、いっそ 1 つの文章にしてしまっって、「公園を見直して楽しめるようなことを考えましょう」みたいな。それをもうちょっとオフィシャルな、きれいな言葉で 1 つにまとめるというのはいかがでしょうか。

それと、10 ページを見ていただきまして、(2) の「図書館の活用」なんですけれども、これは私自身もすごく大事だと思うんです。先日、実は水道端図書館と、それから真砂中央図書館の館長さんに、深谷さんに一緒に来ていただきまして、近所のお母様方みんなでお話をしに、お願い事をしにうかがったんです。

そこでお話をしましたのが、実際にこういうスペースもあるんだけれども、私たちとしても絵本を子どもたちに読み聞かせたり、楽しいことをしたいんだけれども、図書館という場所柄、特に熟高年の男性の方から苦情が来ると。あの子がうるさい、この子がうるさいというのを職員さんに言われるそうなんです。そこで言われるのはまだいいとしても、お母さんに聞こえよがしみたいに舌打ちをして帰るとか、そういうちょっとひどい、心ない行動もありまして、こういうスペースを設けるとかいったこととは別に、熟高年の方々にも、子どもというのはどんなに静かにしようとしても限界があるんだよということを知っていただいたり、それからお母さん方が安心して美術書ですとか食育の本ですとか、絵本から遠いところまで行って、自分が読みたいものを読めるような、そういう環境づくりができるような、例えばステッカーを、何か標語を考え出して貼ってみるとか、そういう案があったらいいんじゃないかなと思ったりしました。

それから 11 ページの方を見ていただきまして、「エレベーターの表示の工夫」。この辺りにな

と思うんですけれども、「子育てにやさしいエレベーター」が分かりにくいというのが区民の方の声からあったと思うんですけれども、それがまず1つ。それから、エレベーター自体がベビーカーを押しているお母さんたちにとってはありがたいわけで、ですけれども、ぴんぴんした若い人たちが使っちゃって、ベビーカーが乗れないとか、お年寄りが乗れないというのが現状としてあるわけですから、それもやはり、何らかの呼びかけで、ベビーカーとか体の不自由な方を優先しましょう、といった運動的なものがあったり、ステッカーがあったり、そういったものがないんじゃないかなと。そうした具体例を入れていただくのはいかがかなと思います。

それから12ページの、先ほどと同じく上からも申しお母さんたちをきゅうきゅうにしないようにというお話なんですけれども、施策のための具体案、12ページの真ん中辺りですが、「大人のリズムに子どもを合わせるのではなく、子どもにとってのぞましい基本的な生活リズムを確立する」、この「確立する」を、こういうふうに言うんじゃないかと、もう少し「がんばりましょう」とか、柔らかい言葉尻でまとめてみてはいかがでしょうか。以上です。

(会長) 今、出されたご意見は大きく2つあったと思います。1つはトーンが、これが理想の親子ですよというのがちょっと強く出過ぎていて、現実には遅くしか帰ってこないお父さんを子どもが待っていてリズムが狂うとかいろいろありますね。そういうことがいけないことになってしまうと、追い詰められてしまうのではないかと、少し書き方の問題です。原則はそうかもしれないけれども、現状というものを考えて、少しそういう努力をしましょう程度のものにできないかというのが1つですね。

それから、個別にいくつかちょっと矛盾したような感じに聞こえるのではないかと、修正の要望が出たということです。大切なところですので、ちょっと議論をいたしましょう。ご意見をどうぞ。

(団体推薦委員) まず前段の議論については、いっぱい議論が必要だと思いますので、後段の具体策のことですけど、こういうとりまとめ方で、あくまでも具体案ということで出しているようになっているので、先ほどのまず公園については、いろいろな考え方があっていいのかなと。まとめるのは、たぶん本文の方で結構まとめた言い方にしてあるので、こんなアイデアもある、こんなアイデアもある、ということで併記しても、一見矛盾するようでもいいのかなという気はしました。

それから図書館、エレベーター、それはおっしゃる通りではないかと思うので、もう少し工夫して、子どもでも利用しやすいということ、子どもを持っている親以外の人に分かっていただくような活動をするとか、そういう記載にしたり、エレベーターについては、さっきおっしゃっていただいたようなアイデアを取り入れるというのは私はいいいのではないかと思います。具体案なので、いろいろなアイデアがあって、それがこの本文の趣旨から離れていなければ、私はいろいろ織り込むべきではないかと思っています。

前段の方はいろいろな考え方があって、すでに修正をしてきたところはしてきたんですけれども、まだやはりある部分溝はあるのではないかと、これは私の個人的な意見ですけれども、小児科の先生と話す機会があって、やはり孤立感を緩和するための施策が必要だということを非常に説いていらっちゃって、そうだよなというふうに思って。ただ区が何もしてくれないので、医師会は独自にやろうかという話をしているんだよと。だから、ぜひがんばってくれみたいのに逆に励まされたりしているんですけれども。

理想と現実のギャップを埋めるというのは、この文章の中である程度分かるような形にはした方がいいのかなと。「こうしなきゃいけない」というようなとらえ方はされない方が確かにいい

のかなとは思いますが。ただ、一定の方向性、「こうあるべきだ」というものを示して、そうしなきゃいけないんじゃないかと、そう近づくために区がそれを助けてあげようよと。自立ができるように助けてあげようよ、というような書き方でできたら非常にマイルドだし、それが区のビジョン委員会としてはあるべきなのかなと。これはあくまでも個人的な意見で、思います。

ただ、この1のところに書いてあることはどれも素晴らしいものなので、この素晴らしい内容があまりトーンが下がり過ぎないような配慮は必要かと思えます。

(会長) どうでしょうか、この辺り。

(団体推薦委員) 今の議論に関係しなくてもいいですか。

(会長) ちょっと今の議論を少しお願いします。

(団体推薦委員) 表現の問題ですよ。僕は、自分がそんなにがんばっていると言われるほどの子育てをしていません。これだけやっているというふうには、僕はとても自分では言えないので、いろいろ反省点はあるのですが。表現の問題はある意味どうでもいいんじゃないですか。僕は、この基本点が出てくればいい、そういうふうに思います。

(会長) いろいろなものに対する、こうしようと呼びかけるときには、私たちの世界では2種類、方向を指し示す目標と、到達点をはっきり示す目標というのがあります。何とかするような方向でみんなが努力しましょうというのは、それぞれが選択の余地があるわけですね。ただ、そっちの方向は確かにいいんだろうという。

例えばテレビを1日2時間以内にしましょうとか、そういうふうになると「私は2時間半も見せているんだけど大丈夫かしら」ということになってしまうということがあって、実際に小児科にそういう意見がいっぱい来ているんですね。日本小児科学会が、2歳まではできるだけ2時間以内に、というような具体的な提案を出したんです。それで、学会でも実は激しい論争になりまして、なぜ2時間なのだとということと、そういう時間を示してしまうと親はうんと不安になってしまうのではないかとということで、テレビだけではなくて、いろいろな生活をちゃんとやろうという程度でいいのではないかとということで。

しかも、テレビを見ていたら言葉が遅れるというデータは学問の世界にはないと。まるでテレビは言葉が遅れる原因みたいに書かれているというのも、学問的には不正確であるとか。いろいろ僕らもそれを議論して調べたら、例えばイギリスの小児科学会などでは、0歳、1歳からテレビをたくさん見ている子どもは言葉が多少遅くなるとか、それはあるでしょう。当たり前ですよ、それはコミュニケーションをしていないんだから。だけど2時間というのは、実はアメリカの小児科学会が最初に出したんです。ところがイギリスの小児科学会は、そんなことをしたら国民が自分で考えなくなると。だから私たちは絶対にそんなふうな出し方はしませんというふうにはっきりと言っていたんです。

だから、考え方は大変難しいというのはそうなのですが、方向をある程度指し示しながら、それに向ってみんながそれぞれできる条件の中で少し努力しましょうというような書き方にとどめておくというのが1つの手ですね。

見たら、さっきの「確立する」というのはちょっときつい言い方ですよ。それはちょっと、方向を指し示したような文章に少し緩和するということは可能かと思いましたがけれども。

(団体推薦委員) 僕も、今の汐見先生の考え方に基本的に賛成です。ここで2時間と小児科学会が出たと、一切そういうのは入れていないですね。あえてそこは入れていないので、そこはやはり、本当に僕も今のに共感しますが、みんな自分で考えなければいけない。その契機を奪ってしまうと、本当にみんな自分で考えなくなってしまう。

(会長) そうですね、国がおせっかいをするのと同じですね。

(団体推薦委員) そこはやはり自主的にやっていく、それを促すような、包括的な。

(会長) ある種の方向でいいですね。

(団体推薦委員) 方向性だけを。それで後はもう自分で考えるべきだということに大賛成です。

今の言葉はすごく気に入りましたが、自分で考えるための契機にするというのは、非常にいいキーワードではないかと思います。

(公募委員) もう少しだけ補足させていただきたいんですけども、今私が言ったことには、私自身の反省点もすごくあるんです。私も結構メディアから離すとか、母乳絶対とか、そういうある意味信者じゃないんですけど、結構強かったんです。常日ごろから、母乳がいいと言われてね、私の尊敬する助産師さんがいつも言っていてね、メディアもよくないと言われていてねということをお話している友だちがいたんですけども、私は情報を提供して、情報をシェアしているよ、という気持ちでいたんです。けれども、ある日そのお母さんが言うには、私の家はとても夜遅くまで旦那さんも帰って来なくて、いっぱいいっぱいなわけです。それでもどんなに自分がきりきりしようが、病気になろうが、何があろうが、朝起きると子どもはもうすでにいるし、トイレにだって、お風呂にだって、ずっとくっつきっぱなしで、24時間一緒なわけですよ。そんな中でかーっとなって、じゃあどうすればいいかという、テレビを見させて、その間に自分はクールダウンをしたり、家事をして、そしてまた元に戻って、リフレッシュしてまた向き合うというふうになっているそうなんです。

全部できるわけがないから、どこかを切り捨ててしまっ、その分、それを自分の工夫ととらえて回していくというのも、それはそれで非常に利口な「工夫」だと思うんです。利便性ではないと思うんです。よくここで利便性とか都合という言葉が出ますが、私はあえてそれは事情と言っていたきたいなど。個々にいろいろな事情があるわけですよ。もういまや、サザエさんみたいにあんなのんびりした家なんか存在なくて、都会には都会なりの事情がいろいろあって、私なども病気であるとか、ここで言えるからまだ不幸中の幸いであって、皆さんも働き盛りののに、夜の7時にここに来れているということは、絶対的に幸せなのではないんですけども、相対的に恵まれていると思うんですよ。私が仕事をしていたときに、こんなに定期的に資料とかをつくって、仕事以外にここに来るなんてもうあり得なくて。今まさに、じゃあみんなそろったからミーティングをしようとか、今から集中時だねとか、そういう時間帯であるにもかかわらず、私たちはとても何だか、この瞬間恵まれていて、ここに来られるわけですよ。

ただどこにいる20人が、きつこうすれば幸せになれるという話をするんじゃないで、ここに来れないシングルマザーであったり、DVを受けていたり、保育園に入れなくて、それでも仕事をしていたり、そんな人たちの幸せの最大公約数を見つけないといけないわけですから、理想ももちろんそれは大事なんですけど、それとは別の言うに言えない事情もくんであげて、ちょっと後ろから、トントン、がんばろうね、迷っているお母さんには「それであっているんだよ」と背中を押してあげるというぐらいが、みんなのハッピーな状態に向ける助言になるのではないかと思います。

(会長) ありがとうございます。どうぞ。

(団体推薦委員) 1点ワーキンググループでの議論を踏まえて、少し補足しておいた方がいいかと思う点があります。自分で考えるということとのかかわりなんですけど、7ページに、1. 基本目標、(1) (2) (3) (4) とあって、(4)の部分というのは、実は最後の最後になって、知について言わなくていいのだろうかという問題提起を受けて、少し急いでつくった経緯があったと思

ます。まだちゃんと練れていない部分でもあるなど前から気になっていたのですが、ここについてワーキンググループでの議論をいろいろ思い出してみ、思いついたことがあるので提案させていただきます。

僕も出させていただいたワーキンググループ4の議論の中では、知を育んでいくと同時に、子どもの自立が大切だという意見が出されていきました。それからワーキンググループ1の議論をしているときに、非常に貴重なご意見だと思うのですが、要するにここでは親に受け入れられている、受容されているということを非常に重要視するということになりますけど、つまり愛を受け取るということですね。それと同時に、自分が与えるというか、例えば動物を飼って世話をしあげるとか、そういう give の部分ですね。そういうことも大事なのではないかと。単に甘やかしているのではダメなのではないかというご意見がありました。give までいけるかどうか分からないんですが、give までいく前に、やはり自分のことを自分でできるようにしていく。たぶんそこがあって、それで give にいく。そういう考え方があると思います。

それから、とにかくけがをするかもしれないけど、包丁を持たせてやらせてみるというような話もありました。(1)、(2)、(3)は環境を整えるという話で、その中でベクトルとしてだんだん自立していく子どもの姿を(4)で描けるといい。その自立に際して、子どもたちは知恵を得ていくので、この知と絡めて、自立ということを少し読み込むといいかと思えます。

例えば、これは後で推敲していただきたいのですが、「日常生活の中で自分でできるようになることを大切に、子どもの自立のステップを支援していく」ということをここに入れると、結構今、いろいろなご意見をくださった方々のご意見が総括できるかなと思えました。

(会長) それはどこに入れるのですか。

(団体推薦委員) (4)の「形式的な知育に偏ることなく」というところで、1つだけあるのですが、ここに並べて入れてみたらいいかなと。これもすごくアバウトな、あいまいな表現ですが、あとは自分たちで考えるということでもいいのではないかと思います。

(会長) いくつかこの数年の間に日本の子育てについて書かれた本の中で、子どもを抱きしめてあげなきゃいけないとか、そういうことばかり強調するために、それがかえって育児ノイローゼのように追い詰めているという批判の本がいくつか出ています。最近私たちの研究仲間の根ヶ山さんという早稲田の先生が出したのは、『子別れとしての子育て』です。子どもからどう別れていくのかということ順番にやっていくのが子育てなのだ。だから、子どもが泣いたときにすぐ飛んで行かなければいけないという、そんなことはないんだと。泣いても来てもらえないときがあるということ子どもが学ぶことも、また大事なことなんだということで、それは必ず子どもの力になっていく面もある。だから、きちんと見ていたら少し乱暴に扱っても、子どもはこれで1つのいい経験をしているんだという形で、そういうふうに見ていかないと、いつまでもこっちが世話をしなければいけないという、それで追い詰められてしまうのではないかと。

子別れとしての連続性、発展としての子育てという、面白い本が、NHKブックスから出ています。それは別の言い方をすると、自立のための子育てですね。そういう視点を少し入れてみて、親をあまり不安におとしめないという。少しほっておいたら、子どもは自立する練習をするしかないんですから、ということですね。

それはまた文章としては考えましょう。そういう意見が出たということですね。

(副会長) うかがいたいんですが、目標1の基本目標で、(1)(2)(3)(4)とありますが、(1)と(2)のところ、施策のための具体案とここでは打っているのですが、(3)(4)ではないわけですか。ちょっと今のお話からも考えるに、(1)の施策のための具体案、(2)の施策のための具体

案については、ここはおっしゃるように自ら考えるという部分で、具体案というよりもある意味もう視点ということで、施策のための具体案というのは削ってしまってもいいのかなと思いますが、いかがでしょうか。

ほかのところは、施策のための具体案ということで、公園のところとか図書館のところとか、これは整合性があると思うのですが、はじめの所は削ってしまった方がいいのではないかと。

(会長) お分かりでしょうか、7ページと8ページのところです。7ページの真ん中から下のところに(1)とありまして、「子どもたちに、のぞましい基本的生活習慣を確立していく」という後に、施策のための具体案とまた書いていますが、中身を見ますと、「食事、身体と五感を使ったゆたかな遊び、十分な眠りを子どもたちに」ということで、具体案というよりは施策のための視点のようなものですね。だから、ここはもうこの言葉はなくてもいいのではないかということですよ。

(団体推薦委員) 先ほどご指摘いただいた視点があれば、Vision1と2というのはあまり相矛盾するというか、対立概念ではないと思います。やはり追い詰められている、精神的に大変なお母さんを助けるための視点と、自立を促すための視点というのは相両立するものだと思います。

ただやはりどうしても、僕も実はアメリカで1年、面と向き合って子育てをしましたけれども、そのときは本当につらいんですね。つらいんだけど、誰もが乗り越えなければいけないんだと、また押しつけちゃうのではなくて、ある意味でみんな経験しているのかなという。そこは、うまく表現できませんけれども、それを緩和する施策と、その中でもがきながらも、みんなどうしたらいいか考えて。だけど、もしこういう1みたいなものが書いてあれば、確かに「そうだよね」と思いながら、常に心の支えというか、指針にもできると。

だから、1は1で本当にいいことが書いてあるので、このよさを減殺しないような表現にしていきたいと思います。

(公募委員) 本当におっしゃる通りだと思います。私自身は、1の内容はすごくいいことだと思うんです。本当に大事なことだし、実際、何が問題なのかという、いいことなだけで、まず支援体制ができていないのに理想ばかり追いかけるのは不可能である。要するに支援が足りないわけなんですけれども。

かつ、いろいろな事情があったり、それから怠け者のお母さんと言うとすごく失礼なんですけど、やる気がないお母さんと、すごくがんばっているお母さんと一緒に全部指導するのは無理だと思うんです。怠けて、子育てがもう嫌だわとか、いかに怠けるかばかり考えている人がいるのかどうか分かりませんが、そういった人がはっと気が付き、かつ知識をもうちょっとほしいと思う人がこれを読んで、「そうなんだ」と納得できる指南書じゃないですけど、そういうものになれば本当にいいと思います。基本的には、私は1自体の存在も大賛成だし、すごくいいことだと思います。ただ、私たちをあまり追い詰める書き方をしないでいただきたいなということなので。

(団体推薦委員) 余談ですけども、先ほど支援とおっしゃっていましたが、実はお医者様、小児科医だけじゃなくて、フレッシュママや、あとは私たち民生・児童委員は保健所の4か月健診などのお手伝いに行って、そこで一応最低限のPRはしているんです。お医者様でも支援していますよ、小児科でも支援していますよ、幼稚園でも支援していますよ、保育園でも支援していますよ。それで私たち(民生・児童委員)も支援しているので、使ってください、というふうに。今、本当に文京区の小児科なんかは、とてもそういうことを先生方が自発的にしてくださっていて。ただ、それを本当に皆さんが知らないというのがあるので、もっと統一して支援ができれば、

よくなるのではないかと思います。たぶんPRが少ないかなと。それは区であったり、口コミであったり、いろいろなことだと思うんです。吉田先生なんかも、とてもそれは個人的にたぶんしていただいているという、そんな感じなんですね。だから、これからももっともっと、そういうのもちょっと入れていただけると。

(会長) ちょっと先にいきますけど、15 ページの一番上の方に、場所はここでいいかどうかなんですけれども、施策のための具体案の中に、「1 か所に行けば、必要な情報が一括で閲覧できたり、入手できるようにしていく」ということで、ばらばらでなくて、それは、例えばコンビニエンスストアで全部見れるということができればもっといいんでしょうけれども。とにかく、そういうことをやってもらうように区でいろいろ案を練ってもらうとか。

これは十分議論をしなかったんですね。実際にはいろいろなことをやっても、全然情報が住民に届かないということで、むだになっていることがすごく多いんですね。ですから、何かもっと情報がうまく届くようなシステムをつくるということでしょうね。

(副会長) そののところとも絡むので、Vision1 から…。

(会長) 申し訳ないですけど、時間も限られているので Vision2 に移っていいです。

(副会長) 移ることに関連して。実は Vision1 の部分が、ここは非常に大きく重要なところなのでだ一んと書いているわけなんですけれども、若干 Vision2 の方に移した方がメリハリが利くし、かえってその方がメッセージ性が高いと思われるような部分もあるので、部分的に移してしまうということを考えてもいかがかと思います。

ややこしいことを言っていますか？ここがとても重要なところではあるんですけども、例えば10 ページは、「詳細については保育機能の中核としての保育園を参照」という形になっていて、残念ながらここでこれ以上は書いていないので、せっかくいいことを言っているのに、非常に尻切れトンボな印象になってしまって。先ほどの情報を一元化するというような部分、支援をしていくということについても、Vision2 の方で大きく展開しているんですけども、ちょっとその部分でうまく見えなかったりということがあるので、せっかく Vision1 でばんと打ち出しているものを、より活かすために部分的に Vision2 に移す、Vision3 に移す、Vision4 に移すというところがあってもいいのかなということを踏まえて、Vision2 の方をお考えいただけたらと思っているのですが、いかがでしょうか。

(会長) これはこれまでの議論にあったのですが、Vision1 の方の書き方と、Vision2、3、4 の書き方と原理が違うところがあって、Vision1 の方は親に向けてとか、行政が何をすべきか、親が何をすべきかというふうな柱で書いています。ですからある意味では、基本的に大事なことというのはすべてが出てくるわけです。そのうちの各論を Vision2、Vision3 でやっていることとなりますので、Vision1 はむしろ総論的なところが若干あるわけです。そうするとダブリが出てきます。

そこで、報告書としては文章上のダブリをできるだけ整理して、すっきりしたものにした方がいいのではないかとのご提案です。例えば今の3-3のところは、4の方にそのまま回してしまってもいいのではないかとのご提案です。

それで Vision1 ががたがたと崩れることがなければ、読んでいる人はそちらの方が分かりやすいということになります。後ろを見てくださいというのは、報告書としてはちょっとおかしいですね。後ろを参照してくださいというのは、きちんとした報告書の文章としてはちょっとおかしいので。そういうことを念頭に置きながら Vision2 を見てください。

(公募委員) またちょっと細かい表現になってしまうんですけども、17 ページの「医療体制

の充実」。ここの施策のための具体案の「4 か月健診、集団予防接種の実施場所の拡充の検討」。ここは、厳密に言えば「集団予防接種等の実施場所の拡充の検討」の方がよろしいかと思えます。下には、予防接種等とは書いてあるんですけども、ここにもあった方がすばっと分かるのではないかと。実際、集団予防接種もなるべく小さいところでばらばらにばらけて、感染症が散らばらないようにしていただきたいのはもちろんなんですけど、わざわざ元気な子どもを連れて、おたふく風邪の予防接種のために風邪の菌がいっぱい充満している小児科に連れて行ったりはしたくないというのが、もともとのお話をさせていただいた部分なので。

それと、18 ページの (3)「子育て支援の視点から施設設備の取り組み」。ここに、「親と子、障害のあるなし、性別の違い等、多様な視点に配慮した施設設備をすすめる」とありますが、勢いとしては、言いたいことは分かるのですが、「障害のあるなし」という書き方が何となくな、と思うのですが。「障害の有無」とか、「障害を持っている子どもも」とか、隣とちょっと合わせる言い方とかして、あるなしは何となくやめた方がいいような気がします。細かいところすみません。以上です。

(会長) 確かにそうですね。「多様な視点」というのか、「多様なニーズ」というのだったら分かりますね。親と子というのは視点なのかな、ちょっと違うような気がするな。ちょっとこれは考えましょう。

あとは、かなり練られてきた文章ですので、あまり根本的な意見はないかもしれませんが、よろしいでしょうか。それではまた後で気が付いたらということで、Vision3 にまいります。Vision3 は 2 ページしかないですが、これは非常に難しいところです。

(公募委員) 私は Vision3 のワーキンググループに出ていないので、できたらどなたかご説明をしていただければと思うんですけども、19 ページの目標の中で、「だれもが自分らしい…」とあって、「生活のあり方に応じたさまざまな就労形態や、仕事と」というふうに、「さまざまな就労形態」とあるんですけども、これは具体的に土日であったり、例えばトレーダーである方だったら深夜までやっていらっしゃったりとか、飲食店だったら深夜までやっていらっしゃったりとか、年末年始デパートで働いていたり、そういった方々は年末年始もサポートが必要とか、そういったイメージということでよろしいでしょうか。

(会長) この文章はもともとですか、それとも久住さんの方が少し整理したのでしょうか。

(保育課長) もともとの文章をここはあまりいじっていません。就労形態については、今ご指摘のような形で、いろいろな就労の形態があるというところで議論があったところですので、そうした意味で使っているというふうにご理解いただければと思います。

(会長) 文章がちょっと、「生活のあり方に応じたさまざまな就労形態や」と「ための充実」なんですかね、どこにつながるのか。「さまざまな就労形態に応じた生活のあり方」というのなら分かるのですが。ここは第 3 グループの方々、本意というか趣旨はこういうことだということを簡単に説明していただけないでしょうか。

(団体推薦委員) たぶんこの部分は久住さんがつくられた文章だと思います。僕らが出したのは全然、こんな文章は入っていないです。

(会長) 久住さん、これは文章をもうちょっと、報告書としては意味がちょっとよく分からなくなっている感じがしますので。

(公募委員) 私は第 3 グループですが、今おっしゃったように、この部分につくっていないと思います。「生活のあり方に応じた」というより、むしろ「さまざまな雇用・就労形態」のほうが分かりやすいと思います。自ら選んだ就労形態だけじゃなくて働く場合も多いですから。

(会長) そうですね、そうせざるを得ないというのがありますものね。

(公募委員) 「雇用・就労形態」というふうにした方が意味が通じると思います。

(会長) 「雇用・就労形態」ですね。好き好んでフリーターをやっているわけじゃないという人もいますしね。

(公募委員) 今うかがいましたのは、私は1月15日の区民に対する説明会に傍聴で参加したのですが、その中ですごく大変なお母さんがいらして。DVを受けながら、警察ざたにもなって、それからシングルマザーになられて、夜昼なくフリーで働いていらして、もう予約というか、お仕事に来るたびにパニックになって本当に大変だったという話を、こっちが涙なしに聞けないようなすごい壮絶な体験を語ってくださったんですけれども。そういった方々も、自らの体験を語ったかいがあったなというVision3だといいな、というのをちょっと確認したかったのうかがったので、そういった深夜働くお母さん方にも光が当たるのだったらとてもうれしいなと思います。

(副会長) よろしいでしょうか。この「親の就労・多様な生き方の支援」については、目標1は「従業員の生活条件を踏まえた雇用・就労のあり方を支援する」となっていますが、たしか区民の方の意見の中で、多様な生き方というのはイコール親の就労支援に読めると。多様な生き方の支援といったときには、もっと就労以外にもあるのではないかというご意見があったので、1のところ「雇用・就労のあり方を支援する」というふうに出すのであれば、2の方は「働くことの支援」ではなくて、「多様な生き方への支援」というふうには分けた方がいいのではないかと思います。

もう1つ、ここでは就労、あるいは働くという言葉が使われているんですけれども、いわゆる賃金労働以外でも働く、ワークという部分でのさまざまな評価の仕方がありますので、2の「働くことへの支援」というところは、いったん「多様な生き方への支援」というふう置き換えて、ここで再び社会にかかわりたいと願う人たちの支援ということで、もう少し立てた方がいいかなと思います。

そして、「それぞれの状況に応じて働ける場を得られる環境づくり」という言葉も、「働ける」という言い方はちょっとあれかなと思うので、「それぞれの能力を生かせる情報提供、環境づくり」という言い方で変えられないかと思いますが、いかがでしょうか。

(会長) それは具体的にどこですか。

(副会長) すみません、20ページの2「働くことへの支援」の「多様な生き方への支援」を、「それぞれの状況に応じて能力を生かせる情報提供、環境づくり」ということで、ここでは働ける場というふうにかなりなってしまうので、そうではなくて能力を生かす、あるいは多様な生き方の足がかりというか、そういう情報提供をするという、ちょっと位置づけを変えた方が明確ではないかと思います。

(会長) そうすると、今の2のところ「働くことへの支援」となっているところは、もう少し広げて「多様な生き方への支援」として、働き方への支援はむしろ1の方にまとめるということでしょうか。

(副会長) はい。

(公募委員) そうすると、2が「多様な生き方への支援」となると、下の(1)(2)ももう少し変えないといけないわけですね。これは具体的に何か案というか、お持ちでいらっしゃいますか。

(副会長) (1)の「もう一度社会に参入したい、接点を持ちたい人を支援する仕組みづくり」、

これはあるかなと思います。

(公募委員) そうすると(2)の「それぞれの状況に応じて働ける場を得られる環境づくり」のところは…。

(副会長) これを変えて、例えば「それぞれの状況に応じて能力を生かせる環境づくり、情報提供」という言い方とか、そういう形で広げる。

(公募委員) そうするとたぶん、施策のための具体案ももうちょっとあるんですよね。(1)の中は仕事を中心に具体案が出ているので、もうちょっとイメージしていращやるのがポツポツ出てくるのかなと。

(副会長) 可能性としてはありますので、また思いついたらとか、ここはかなり出てくるのではないかと思います。

(公募委員) ぜひそういったものを盛り込むのはいいのではないかと思います。

(団体推薦委員) 確かに「働くことへの支援」を「多様な生き方への支援」とすると、働かない生き方もある。例えば学生さんとかもあり得るでしょうし、あと第3グループの議論を読ませていただくと、主婦の方が社会と接点を持つということも議論されているので、いくつかそういうふうに就労していない属性の整理ということも必要だと思います。

(会長) その場合の支援というのは、例えばどういう内容でしょうか？

(団体推薦委員) 雑駁なイメージで恐縮ですけども、子育てサポートにかなり重複してしまうのでしょけれども、お子さんがいращやる方が何らかの形で接点を持てるような場をつくるのが、少なくとも専業主婦の方には必要なのかなと。

あとは学生の方だと、日中拘束されているという意味では、賃金を得ているか、得ていないかだけの違いぐらいしか本質的にはないのかもしれないかもしれません。なかなかすぐにぱっと思いつきませんが、今、心の中にぱっと出てきたのはそのぐらいですけども。

(会長) 専業主婦の方で、自分の夫がかなり厳しい労働で、家事育児は全部やらざるを得なくなっているという、非常に世界が狭くなってしまうとか、閉塞感と。そういう人たちがすぐに就労するというのではなくて、自分の人生をもう1回考えたり、ゆったりと考えるようなチャンスや、将来のことを考えるような場とか、そういうものをうまく地域社会の中につくっていく。それは子育てだけじゃないですね。子育て支援というよりも、むしろ親の人間としての生き方支援みたいなものですね。そういうための場のようなもの、例えば情報提供だとか、学びの場というのも少し書き加えるということでしょうかね。

(団体推薦委員) 今のところで、我々の議論の中で出た具体的なケースですが、例えばフルタイムではなくて、パートタイムで働いていращやる方がたくさんいます。そうすると、パートだと保育園に入れるか、入れないかの指数が低くなって入れなくなる。だから、ますます働かなくちゃいけなくなるとい矛盾があって、どんどん悪化していくと。だからフルタイムだけではなくて、パートの方とかもいращやって、いろいろな働き方のバラエティがあるんだというところで、その方たちもちゃんと保育園のニーズがあればつくってあげるといようなシステムを組み込んでいくということが大事だと思います。

(会長) 認定こども園なんていうのは、そういうのに近いものですが、すぐに文京区がそれをするといことは計画していませんし。ただ、多様な働き方があったときに、仕事と育児をうまく両立できるような、もう少し柔軟なシステムといものをつくらなければいけないとい、それは確かに大事ですね。

(団体推薦委員) 多様な生き方といのが大き過ぎるような気がするんですけども。今先生

がおっしゃったように、多様な働き方というのだと、これに少し加えればいいと思うんですが、多様な生き方の支援という、生き方というのはどうかなとちょっと今思ったんですけれども。

(会長) どうですか。

(団体推薦委員) ずっと先ほどから、具体的じゃないんですけど、最初から考えていたんですけれども、今とかなり関係してくるんだと思いますが、女性の自立みたいな、生き方の、そういったところをどこかで一言触れる必要が。要するに子育て支援ばかりになってしまって、女性自身がどう自立するか、みたいな。先ほどの子どもの自立もそうですけれども…。

(会長) 男も入れてほしいですね。

(団体推薦委員) まあ男もそうだけど、そういう何かちょっと、文章でどこかあって。全部支援、支援、支援で、要するにどういうふうに自立するか。生き方をどう自分自身が、その辺のところをどこか1つ必要なのではないかと、さっきからずっと考えていたんですが。長い文章でなくても、何かないと、すべて政策というか具体的な支援ばかりで、ちょっと気になっていたんですが。どこにも出てこないんです。

(会長) Vision3は「親の就労・多様な生き方支援」となっていますね。そうすると、「親の就労・人間としての自立への支援」とか何かそういうふうな形ですか。

(団体推薦委員) バランスが取れるような気がします。具体的ではないんですが。

(会長) ただ、多様な生き方というのが具体的にどういうことなのかとイメージしにくいことはありますね。

(団体推薦委員) これは基本的に母親用ですよ。

(会長) まあ、この部分ではね。

(団体推薦委員) ですから、その辺もちょっと…。

(公募委員) 多様な生き方というのは、今まで女性は特に、日本では型にはめられた生活を強要されてきましたから、それを抜け出すことが非常に困難であることと、それに対する周辺の圧力とか、自分の罪悪感もあると思うので、やっぱり多様な生き方というのをもう1回言う必要はあると思います。心の中で思っている、何となくそれが、自分も他もそれによって説得できるということ。

それから、やはり家事育児に対して縛られてきたのは、たとえ社会的な労働をしても何といても女性のほうですから、子育てをしている母親を支援することによって、女性の自立ということにもつながるわけです。だから、そういうことをどこかでワンフレーズぐらい説明をすれば済むことであって、そのこと自体はやっぱり今の日本では必要だと思います。

(会長) 妥協案として、「多様な生き方と人間としての自立への支援」というのを入れていくとイメージしやすいかもしれませんけどね。

(団体推薦委員) 母親だけでなく、父子家庭もありますね。

(会長) ずいぶん増えていますね。

(団体推薦委員) そこへもやはり支援というのは大事なことだと思います。結構保育園に、お父様だけで育てていて、送り迎えをしていらっしゃる方もいると思うので、やっぱり母親だけに向けという言い方じゃなくて、父子家庭にもというのも入れないと、ニュアンスだと女性だけに向けているというのがあるのかしらという気が、先ほどのご意見からふと思ったんですけど。

(団体推薦委員) 基本は一応就労しているという。

(団体推薦委員) 支援度はだいぶ違うんですけれども、でも残業ができなかったりとか、小さいときに特にそういうのがあって、苦労はなさっているかと思うんです。母親の場合は、わりと

就労しないで母親だけで育てている家庭もあり、就労していて仕事が忙しくてネグレクトになる場合もあって何とも言えないですけど、やんわりとどこかで入れた方がいいのかなと今思ったんですけど。

(団体推薦委員) たぶん2番の、いろいろな事情がある、そちらに。

(会長) 何ページですか。専業主婦・主夫というね。

(副会長) 14ページの冒頭の「文京区には、さまざまな親子がいます」のところ。(2)で「一人親世帯」となっているのですが、ここをもうちょっとイメージとして明確にするために、「母子世帯、父子世帯」と明確に出していく。なるべくそういう形で、例えば4のところ「核家族の進展に伴い」となっていますが、「核家族の進展や父子家庭・母子家庭の増加に伴い」という形で、またここで世帯の多様性を打ち出していくというやり方もあるかと思うのですが。

(会長) そういう例えば父子家庭へのサポートというのは、具体的なものとしてはあまり出ていないですね。全国的には、父子家庭は20万ケースぐらい出てきていまして、どんどん増えてきていますから、もう珍しいという時代ではないですね。

2番のところは、いくつか要請が出てきたので、大急ぎで文章をつかって、皆さんにまたメールを送って、ご意見を出して、ということ。

(団体推薦委員) 修正履歴を付けてください。

(団体推薦委員) Vision3で、先ほどの萩原さんのVision1からほかのところに移すという提案がありました。僕もその方がすっきりする部分があると思います。Vision3の1「従業員の生活条件を踏まえた雇用・就労のあり方を支援する」の(2)に出てきている、例えば「長時間労働の解消」、それから「子育てをしている人が働きやすい」とか、「男女の役割分担的考えの払拭」とか、この辺の部分はVision1でもうたって、重複している部分ですので、ここで束ねていいと思います。

その際に、ぜひこの前文のところでは、「だれもが自分らしい生き方ができるような」とか、「子育てや家庭生活との両立ができるような」とだけ書かれていますけれど、ここで、そうすることが子どもののぞましい育ちというのを保障するんだと。その子どもののぞましい育ちというのは、Vision1に書いてあることなんだということを、ここで示唆していただけるといいかなと思います。そうすれば、Vision1にそれを残しておく必要はないので、ちょっと前文のところを。

(会長) 例えばVision1に述べられたようにというような形で。

(団体推薦委員) そことリンクしているということを明示しつつやっていただければ、まったく問題はないと思います。

(会長) 分かりました。それはいいですね。

Vision3については、もう少し整理していただく必要があることが分かりましたので、今いただいた意見を大急ぎで文章にして、皆さんにお送りします。Vision3はかなり大急ぎでやっていただきたいと思います。

それでは、あまり時間が無いのですが、Vision4に移りたいと思います。21ページから27ページをお願いします。

(団体推薦委員) すみません、今10分しかないんですけども、今日はどうしても9時に終わらなければいけないんでしょうか。

(会長) いつも時間に終わったことがないんですけど。

(団体推薦委員) Vision4も本当に濃い内容ですし、第VIIも、全体的に非常に不満なところもありまして、若干延長をお願いします。

(会長) 分かりました。ともかく急ぎましょう。どうぞお願いします。

(水道保育園園長) 25ページの「保育園の機能を高めるための方策」に入るのかどうか、話し合った中で、施設設備の充実とか安全対策という話が出たと思いますが、それが具体的に文章として入っている部分がないという気がしました。

また、(1)「必要な人員の確保と資質の向上」のところ、「保育士、ボランティアなどの研修システムを確立する」と出ているんですが、この中で、ボランティアときちんと給料をもらってお仕事をしている保育園職員を同じ形の研修システムととらえなくてもいいかなと思いました。保育園で働くいろいろな職種の人や常勤職員も含めた、働く職員の研修システムの確立と、ボランティアの部分はまた違った形での研修とした方がいいかなと思いました。

もう1点は、ボランティアの活用のところでは、前ページのいろいろなところにもボランティアという言葉が出ていますが、現実的には、具体的に保育園の中でのボランティアも、活用する具体的施策みたいなものが今整っていないと思います。なので、その辺のところをどういう形でボランティアを受け入れるのか、ちょっと具体性に欠けるかなという気もしました。活用とか、ボランティアのシステムとか、ボランティアのネットワークとかいろいろな言葉が出ていますが、ちょっと現実の保育園の中でのボランティアの部分が見えにくいという気がします。

それと併せて、どこかに団塊世代のネットワークづくりという言葉がありましたね。これから保育士も団塊世代が大量に退職する時代に入ってくるのですが、ボランティアと併せて、これまでの実績を活用できるようなシステムをどこかで残せないかなと思ったのですが。それは機能を高めるための方策の中に盛り込めるものがあつたら、1つでも入れていただけるといいかなと。

(会長) 今、大急ぎでたくさん言ってくださったのですが、後でメモを取りまして伝えていただきたいと思います。

(団体推薦委員) 今の先生の指摘で、後で織り込まれないともったいないと思うので、ぜひ紙に書いていただいて。今、これを書くことについて、たぶんそんなに抵抗のある人はいないのではないかと個人的には思いますが、ありますか。なければ、それを織り込んでください、お願いします。

(会長) 大事なことがいくつか出ましたので、ちょっと文章にして。

(団体推薦委員) 織り込むのは、先生が出していただくんですけど、事務局の方で織り込んでという意味で。

(会長) 特に問題があることはない、今、確認がありましたので、ぜひ我々の案として盛り込みたいということです。

(団体推薦委員) 25ページの1番について、「保育士などの研修システムを確立」だけでいいのではないかと思います。ボランティアはまた別なという感じでただし書きなどを入れれば、きれいになるのかなと。ボランティアを使う場合にはという感じで入れれば、使うことも分かるしということだと思うのですが、いかがでしょうか。

(会長) 並行して書くと、ボランティアの人と同じようにずっと研修を続けなければいけないというふうになってしまう。ちょっとそれは違うのではないかと。必要な研修はもちろんする必要はあるけれども、ということですね。もう少し書き方を考えてください。

(団体推薦委員) 根本的なところで1つ疑問を持っているんですけども、このVision4というのは保育園の話を取っているわけですね。一方で、区民意見の中で、何で幼稚園問題を扱わないんですかという話がある。おそらくその回答として、1ページの下差し替えのところで、幼稚園問題も別に検討していますということが最後に2行入っているところなのだと思います。

ます。その上に、この保育園の話と、幼稚園、小学校、社会教育と接合されることが大事だということも書いてある。

これがもしも仮に、保育という世代を通過して、次に幼稚園世代になってという単線的に上がってくる話であるならば、こういう議論の整理もありだと思うんですけども、明らかに幼稚園と保育園というものは複線的に存在するわけですよ。なおかつ、今回は保育園ビジョンではなくて、保育ビジョンです。だとしたら、就学前の子どもがみんな対象になっているわけですよ。

だということになると少なくとも、確かに文京区レベルで幼稚園は別に検討しますということでは分かるんですが、だったらそれがどういう流れになっていて、どちらの方に進もうとしているのかぐらいのところは若干触れておかないと。そういうところにまったく触れないで、これは別に検討していますということで、保育園の機能だけ検討して、なおかつすべての子どもを受け入れますよ、みたいな方向になっていくと、何か矛盾なり重複なりが出てきてしまうのではないかと。

幼稚園問題を取り扱わないということについての回答としては、1 ページの差し替えだけでは話が終わらないのではないかと私は思います。

(公募委員) 今のはすごく勇気がある発言だと思います。みんなたぶん、何となく心に思っていて、委員会ももうあと2回だからいまさら言っても、と思っている方もいらっしゃるんだと思いますけど、非常におっしゃる通りだと思います。1月の在宅のママさんたち、保育園に入っていないお母さんたちのグループヒアリングの中でも、やっぱり幼稚園の問題というのがすごく出てきたんです。この委員会の中で、もともと一番はじめは、幼稚園も触れば幼稚園の方々にも入っていただくよとか、そういったお話だったはずなんですけど、後手後手に計画が進んでいるので、結局触れずじまいのところがいくつもあるんですね。それを具体的に、こうしましょうとか、もう少しははっきり見せていただきたいなという気がしています。

(会長) 例えばこういうふうな書き方を付け加えたらどうかというご提案はないですか。現実には幼稚園のことについて議論することは、はっきり言って大変難しいです。それは行政システムが違うということと、どこの自治体でも、こういうことをやったら必ず幼稚園のことは抜けてしまいます。それはそういう背景があるからなんですけれども。つまり、こういうところから議論をしても、学校のことと幼稚園のことはほとんど書けないんです。

(公募委員) できるものなら、やはり保育課の方から保育ビジョン策定委員会からのお話ですというふうにきちんと部から部へ、こういったことをやってくださいということでしたと、オフィシャルに何か言っていただけないのかなと。それをまたやりましたというのを、少なくともこの20人の人たちに見えるようにしていただけないのかなと。

(会長) この文章をですか。つまり幼稚園のことについては、あまり具体的には出てきていないですよ。それは、別に幼稚園のことを無視しているわけでもないんですが、幼稚園のことについては、例えば教育委員会は私立の幼稚園についてほとんど把握していません。これは東京都の管轄になっていますが、教育委員会では今、幼稚園の中に文京区の子どもが何人いて、ほかのところから通っている子が何人いてということは、つかんでいません。在園児の数は分かるんですけども、そういう細かいことについては、文京区のエデュケーション委員会は、管轄していないために、そういう問題からして大変なんです。

かつ、教育委員会というのは一般行政から独立していますので、例えば次世代育成のプランをつくったときも、僕は4つの自治体にかかわっていたんですけども、すべて教育委員会がネックだという結論なんです。

東京都の児童福祉審議会ですべての子どもの人権を守るためにオンブズマン制度をつくろうと提案を出したら、早速東京都教育委員会から抗議の手紙が来ました。要するに教育委員会は子どもの人権を守るための組織なんだから、屋上屋を架すとはどういうことだ、ということで、みんなで激しく立腹したことがあります。

とにかく教育委員会が管轄していることについて、教育委員会が主体的にプランをつくるということを抜きに、こちらから幼稚園をこうする、ああするなんていうことを言っても、抗議しか来ないです。

ですから、そういうシステムを例えば国の方が、もう幼稚園と保育園を区別しないで、行政も一本化するということになれば、それはだいぶ違います。そうすると自治体もそうせざるを得なくなってくるから。だけど、今のところ簡単にそうできなくて、それはまずいという意見はもうわっと来ているわけです。ですから今、例えば厚生労働省の保育課長は、その次に必ず文科省の幼児教育課長になるんです。文科省の幼児教育課長は、その次に厚労省の保育課長になるという形で人事交流を始めていまして、そういうことで上から何とかしよう。そうしないともうまずい、あちこちでトラブルを起こしているということになってきていて、そういう現実が背景にあるわけです。

ですから、今回僕も引き受けたときに、幼稚園のことはどうするんですかということについてはかなり聞きましたけれども、率直に言って大変議論しづらい。むしろここではまず、子育てをしている人たちの社会的なサポートということは直接幼稚園の任務ではありませんので、幼稚園のことを議論しないである程度できるのではないかということ。それから福祉的な課題ですね、そういう意味では保育園がそこに入ってくることは可能であるということです。

それ以外に、施策としてとにかく子どもを育てる親に対して、こういう形の支援はできるのではないかということ、できるだけ盛り込もうと。だけど、実際に幼稚園をどう選ぶとか、幼稚園の預かり保育をどうするかということについて、保護者もすごく関心を持っているわけですね。それについて、こうしろ、ああしろということについてはなかなか言いづらいということがあって、ずっとあいまいになってしまったということだと思います。

(公募委員) 実はここで幼稚園の話を書いてくださる方がいらっしゃると思っていなくて、いっぱい積み残しになっている課題があるんです。出ているけれども、結局どうなるのか分からない課題がたくさんあって、後でもう少しご説明させていただくんですけど、積み残した課題を一つ一つ、3月までできるところまで、やれる部分だけなんですけど、私は個人的に何かできればと思っているんですけども。

その中で、久住さんとも、この委員会では何十回と電話をしていろいろなことを相談しているんですけども、幼稚園の問題に関しては、久住さんと一緒にというか、教育委員会の方に委員会の中でこんな意見が出ています、というふうにお話をしに一緒に行っていただけませんかというのを、ちょうど今日打診したところで、それはまったく構いませんよと言ってくださったんです。あまりどうにもならないかもなのというのは、きっと思っているしやりながらも、私の熱意に付き合ってくださいってという感じだと思うんですが。

じゃあ後でまた久住さんと、どうするか、何かできることがあるかというのは相談します。汐見先生がおっしゃることもよく分かりましたので。

(会長) この文章に最初に付けたのは、これは中間報告だったかな、どこだったか、いろいろな子ども関係の施策をしていくときの基本指針になる文章であるということを確認してもらおうということで、これからいろいろなプランをつくっていきますね。そのときにこれを無視して

やっではいけないという性格をここに付与して、そういうものとして区長に返しますという、私たちはそういう文章としてつくりましたという。

これからたぶん、幼稚園もなかなか難しいんです、実際は。これからどうやって存続していくかということについて。それからご存知だと思いますが、国の方は幼稚園を無償にしようというようなプランも出てきています。とにかく、ものすごく今動き始めていて、たぶん自治体の方もどうしていいかということで、手をこまねているような感じなんです。それは上が決まれば動き始めると思うんですが、そういうときに、文京区としてはこういう方向で保育ビジョンを考えていますので、これをぜひ参考にしながら幼稚園の方もプランを考えていただきたいという形の持ち込みというんでしょうか、それは当然やっていただきたいというか、そういうことについて匂わすようなことをちょっと書いておくということは可能だという気はします。ただ、あまり越権行為的に書くとすごくまた反発があるので、なかなか難しいところがあるのですが。

(団体推薦委員) 基本的には汐見先生のお話のように、ここで議論には挙げられたんだけど、十分に議論できなかつた積み残し課題として書き込んでおくということでよろしいのではないかと思います。

今先生からお話があったような、背景に国レベルの問題点があるからなかなか難しいということもこれで分かりましたし、そういうときに、じゃあ文京区はそういう中でどういうふうな方針でいくべきなのかぐらいを、結論じゃなくてもいいんですけども。

(会長) そうなんです、こっちと基本的に歩調を合わせてやってほしいということは、ぜひ書き込んでおいたらいいですかね。

(団体推薦委員) そういうことを書き込んでおけばいいのではないのでしょうか。それは例えば就労問題でも、企業の方にも努力してもらわなければ解決できない問題がありますよね。幼稚園の問題についてもここだけでは解決できないので、そういうことの呼びかけを国に対してもするし、都に対してもするし、企業に対してもするしということではいかがでしょうか。

(団体推薦委員) ほとんど今と同じことなんですけれども、第1回のときに幼稚園が入っていないということを実はお話をして、そうしたらその次に、保育園とは、幼稚園とはということをやちょっと用意してきまして、手出しできない部分があるのであれだったのですが、この差し替えの最後の部分が、この2行で逃げているように感じられるので、今おっしゃられたように…。

(会長) もう少し積極的にね。

(団体推薦委員) 要するに、我々素人だと同じものだと思っているので、一般の方が見ても幼稚園と保育園の違いとか、そういうことが分かる文章さえあれば納得していただけるかなと。今、汐見先生のお話があったから我々全員が納得できたように、一般の方にもそのようなことが書いてあることによって、今回幼稚園がないということを書けば分かりやすいと思います。

(公募委員) この表紙のイラストレーションというのは決定なのでしょう？デザインについてはこれでいいんですけども、今のお話とちょっと関係がありますが、保育園ということを明示する必要があるのかどうか。わざわざ問題を起こさないように、ここは保育園というのは削除した方がいいのではないかと思います。

(会長) むしろ、保育園、幼稚園と両方書いておいた方がいいですかね。

(公募委員) 保育園の部分は削除していただいたほうがよいのではないのでしょうか。これを修正するのは、お金の点でも大したことはなさそうですから。

(団体推薦委員) ただ行政というのは、たぶん現場からすると、それは違うぞと言われると思いますし、我々利用者としてもちょっと違うなと思うので、保育園と幼稚園というのを混ぜたら

いいんじゃないですか。

やっぱり現場はがんばっているのに、何で行政はついてきてくれないんだという感じに思っ  
ていらっしゃる方はすごく多くて。利用者もそうです。

(公募委員) 幼稚園について言及していないのに、幼稚園というのをここで明示してしまうと、  
羊頭狗肉にもなりますから。

(団体推薦委員) だとしたら保育関連施設とかね。保育園を含む保育関連施設…。

(会長) 厳密にやると、例えば児童館はどうなんだとか、いろいろ検討したいことがいっぱい  
あるんですよ。

(公募委員) だから中身を正確に示すということではなくて、問題を起こさないために、保育  
園という文字を削除するほうがよいのでは。

(団体推薦委員) 前文のところできっちり書くということが…。

(会長) もう少しきっちり書きましょね、そこは。あいまいにしないで。

(団体推薦委員) 問題に一石も二石も投じると。この絵は、これはこれでいいんじゃないです  
か。だめですか。

(団体推薦委員) その関連で2点ほど、1つは、確かに前書きのところは非常に腰が引けてい  
るような印象を与えるというのは、皆さんおっしゃっている通りだと思います。他方では、汐見  
さんがおっしゃっていたような整理を考えると、一方的な期待の表明をしておけばいいのかなど。

(会長) そういうことなんです。

(団体推薦委員) そうした場で重々活用されることを、我々努力した人間としては強く期待し  
ています、という趣旨のことを入れておくというのは、1つの方法かと思います。

もう1つ、それとの関連で、ここは定義の問題なのでどこまで詰めていいか分からないの  
ですが、今の書き方の中ですと、保育と教育というのは交わりのない概念であるという書き方になっ  
ています。保育施策と教育施策の間に交わりがないことは十分分かりましたけど、保育という概  
念と教育という概念は、実は異なる次元のことを言っているのではないと、第4グループのワー  
キングでいろいろご指摘があったところです。保育が必ずしも教育を包含するとは思いませんが、  
保育に欠けるというときに、欠けていない子どもは教育を受けていたら保育に欠けていないのか  
と、そんな議論もまた厳密にやるべきところはあると思います。

(会長) それはありますね。

(団体推薦委員) そこはちょっと、最後の文章を作成するときには、教育制度と保育制度の話  
と、教育と保育という2つの違ったことを混同しないような書き方で調整をお願いします。

(団体推薦委員) それについて若干補足させていただきたいんですけども。私も、もちろん  
ここで幼稚園をああせい、こうせいということが書けるということは現実にまったく思っていな  
くて。ただ、保育園なり幼稚園なりが相互に関連するなり、補完するなりという機能を持って  
いるのは明らかなわけであって、文京区でも検討が行われていますと書かれるのであれば、今そ  
ちの方で起きていることはこんなことですよというサマリーがあって、それを踏まえた上でこっ  
ちはこうましょというように比較の中で保育園の機能が語られるのであれば、それは合理的だ  
と思います。

もしも今回時間がなくて、その比較をすることがもう現実的にはないということであれば、せ  
めてそれが積み残しのイシューですと。比べて、なるべく整合性があることをやっていくことが、  
今後検討しなければいけない課題なんですよ、ということが明記されれば、それで今回の時間  
的制約の中ではいいのではないかと私は思っています。

(しおみ保育園園長) 細かいことかもしれませんが、25 ページの (2) の施策のための具体案の中に、幼稚園、それから小学校、保育園の連携について書かれてあるんですけども、大まかな書き方なので、これでもいいのかなとも思うんですが、現場で今すごく感じていることは、保育園の子どもたちを小学校へ送り出すんですね。そのときに連携が本当にはないんです。しおみ保育園では、半分ぐらいが汐見小学校へ行きます。現在は校長先生との個人的な付き合い、と言うと失礼ですけど、校庭を貸していただくとかそういうきっかけで、非常に向こうの先生も私たちの卒園児の状況とか、こちらからもいろいろ、こういう配慮をしてほしいということの伝達ができているんですが、その辺はまったく今の現状では、個人対個人というのに任されてしまっているというのをすごく感じます。

学校の校長先生によっては、なかなかそういう機会を持ってないという園長もおりますし、非常に入りづらいという、昔はそういう雰囲気がありました。学校の壁は厚いなという。最近はかなり低くなってきたなということは感じるんですけども、幼稚園のお子さんも保育園の子どもたちも同じように小学校へ行くわけです。その中で、もっと具体的に小学校への連携というのを、もう少し詳しくこの中に織り込めないかなというのをとても感じるんですけども。

(団体推薦委員) 今議論されています幼稚園と保育園の問題ですけども、先ほど汐見先生が整理されていまして、制度的にかなり現実との関係で矛盾が出てきているわけです。例えば保育園は、私が最初から主張していますように、きちんと乳幼児の教育もしていますし、もちろん基本的な人格を保障するための養護というのを大事にしているわけですけども、幼稚園自体も、かつてのように教育一本やりではなくて、子育て支援をせざるを得ない、そういう方向が強まっている。そういう現実が進行しているわけです。

そういう現実の中で、先ほど汐見先生がおっしゃっていましたように、制度上、幼保の問題をどうしていくかという議論が一方では始まっています。始まっていますけれども、やはりまだ伝統的な日本の、教育と保育は違うんだみたいな議論があったり、なかなかまだ溝が埋まる形での議論が非常に難しい状況にあると。

ただし、私はやはり大事なものは、現実的には幼稚園、保育園、学校が、あるいは地域を含めて連携していかないと、子どもの育ちもうまくいかないし、同時に子育て支援もうまくいかないと、それは現実が抱えていると思います。そういう意味で、修正されたこの1 ページの一番下の方を、やはりもう少しそういう方向性、動きを具体的に盛り込む形、そういう課題が今、保育園にとっても幼稚園にとっても重要になってきているということは、きちんとうたうべきだと。

それから、16 ページの一番上の囲いの中にある、保育園、幼稚園、学校などの子育てに関連する機関の連携、これがやはり、制度がどうあろうと現実に必要になってきている。ビジョンとして、文京区としての教育をどうしていくのかという辺りを、ある程度具体的に触れるというか、それとの関係でうまくビジョンの中でできるのではないかという気がします。

それからもう1つ、保育か教育かという、最初の表紙のところですね。これは我々保育園側からしますと、基本的には保育ビジョンで私はいいと思っています。なぜかと申しますと、現実問題としてはまだ法律が変わらない限りは、学校教育法上も保育なんです。77 条で保育と規定されています。教育ということは一言も書かれていません。やはりそういう意味では、きちんと保育の中に、最も乳幼児期にとって大事な養護的な部分と教育の部分はきちんと含んでいるんだという主張ですので、そういう意味で私は、現場としては混乱はないし、そこをきちんと先ほど言った責任の中で訴えていけば、現時点で住民からの理解は得られるのではないかと考えています。ここにももしも幼稚園が入ると、かえって混乱してしまう。

(会長) 絵の中身は、ちょっと考えます。

すみません、もう 20 分ほどオーバーして。まだもう 1 つ議論があるということですが、大事な意見が出て、幼稚園のことについてという、たぶん意見、疑問が出るということで、それはきちんとこういう議論をして、幼稚園に対してこういうプランを参考にしながら、ぜひ今後一緒にやっていただきたいということをはっきりと書いておくということはしたいと思います。

ちょっと僕、皆さんに誤解を与えてはいけないと思っているのですが、幼稚園が子育て支援ということについて始めてきているということで、私は仕事の半分ぐらいは幼稚園にかかわる仕事をしているわけです。幼稚園は子育て支援でどういうことをやれるのかということ、今必死に模索していて、はっきり言いますが、子育て支援として非常に面白いことをやっているのはむしろ幼稚園です。いろいろな、こんな面白い幼稚園があるんだということはおちこちに出てきています。昨日行った幼稚園なども、自分たちで講座を十数回やって、お母さんたちが幼稚園保育士という名前の資格をもらって、今度は保育に参加していくのです。そうしたら子育ての仕方なんて一気に分かってくるということがあって、そんなことを工夫しながらはじめているのは幼稚園です。

それは、昼間幼稚園に来られるから、いろいろなことができるというのがあります。そういう意味で、幼稚園が子育て支援のセンターとして果たす機能というのは、これからすごく大きくなっていくと思います。だから、幼稚園が大事でないわけでは全然なくて、非常に大事だと僕は思っています。そういうことを始めているということについても、少しコメントをしながら、ぜひこういうことを一緒にやっていただきたいということを書き加えていくということです。

それからもう 1 つ、幼小連携のことについてですが、実はあまりここでは議論をしませんでしたが、去年の 10 月 4 日に幼児教育振興アクションプログラムというものが文科省から発表されて、これが現在の幼児教育の基本路線になっています。それには 7 つの柱の方針があります。1 番目は何かというと、幼稚園と保育園は今後一切研修等は一緒にやれと書いてあります。もうすでに各県レベルでは、幼稚園の研修と保育園の研修は別にやっていません。両方やるということで、僕のところへの依頼は全部そういう形で来ています。

それから次は、小学校の先生とも一緒にやれということになっています。それから、できたら幼稚園の先生は小学校の先生の免許も取るようにという形も出てきています。ですから、そういうことが一気に進んでいくということになっていまして、そういう意味では、文京区としても保育園と小学校がきちんと連携を取る、それから保育園が幼稚園とも一緒にいろいろやるということが当たり前のように要請される時代に入ってきます。そこをちゃんと先取りして位置づけて書いておくということは、たぶん大事なことだと思います。

(団体推薦委員) これも先ほど萩原さんがおっしゃった 10 ページの 3-3 の、保育園の問題です。尻切れトンぼになっている部分ですが、これも Vision4 に統合できるかと思います。そのときに 1 つ気になるのは、目標の下に書いてある前文ですけど、ここで「子育てニーズに対応した子育て支援」を行うということしか書かれていないのですが、「保育園の具体的役割」では、「子どもたちに対する責任を果たす」というのが一番はじめにきています。つまり、「子どもに豊かな育ちを保障する」という機能が一義的にあるんだということ、それをやはり目標の前文に盛り込む形で、Vision1 の方から引っ越しをするということできれいになると思います。以上です。

(会長) まだご意見はあると思いますが、ここはこうした方がいいんじゃないかということがありましたら、事務局の方にメールでも結構ですから、大急ぎでお寄せいただきたいと思います。

それでは、ここまででこの件は終わりたいと思います。

(団体推薦委員) 表紙を見てください。表紙で、「語りました！保育ビジョンについてのみんなの夢」と、すごくこれ、結構今回のことを強調しているような気がするんです。それは何かというと、夢じゃない。実行の指針にしていかなければいけない。僕が今言いたいのは、最後の「保育ビジョンの推進に向けて」という、これについて具体的な、こうしなきゃいけないんだという議論をあまりしていないからできないだけけれども、実行しなかったら意味がないんだよということをもっともっと強く言うべきだと思います。

ここは一応、8つ羅列されているんですけども、もう少しこの重要性みたいなものを、ちゃんと筋の通った形で書くべきだろうと。もしお許しいただけるのであれば、次回は3月2日ですか、そこまでに有志で書いて、事務局にご提示したいなと思います。

これは本当に、文京区の施策って結構場当たりのと思われる方が多くて、いいことを考えてやってくださっているんですけども、例えばデータを活用できていないという根本的な問題があります。データをちゃんと蓄積して、どんなときにでも使えるようにしなければいけない。そういうことすらできていなかったわけですから、仕事の仕方とかプロセス、そこが担保されれば内容というのはついてくるのだと思います。そのとき、そのときの英知というものは結集されるのだと思います。5年後に同じことができますかといったら、そのための担保ができていなかったら絶対にできません。

これに沿って一つ一つ施策をばらばらにやっていったら、たぶんまたばらばらの、整合性のないことになってしまうと思います。せつかく筋をつくったのだから、その筋を走らせるためのルールをきちんとつくらなければいけない。

(会長) 今最後におっしゃってくださったことは、実は大変大きな問題で、行政が住民に対して何をすることができるのかといったときに、ともかくできるだけ正確なデータを集めて、本当のニーズはどこにあるのか策定していくという、その情報をちゃんと提供する仕事だとか。従来の行政のあり方、それから住民と行政の関係のあり方について、根本から一回考え直していかなければいけない。

今回のことでも、これを例えば久住さんに何とかしてと言っても久住さんができることではなくて、そういうシステム、例えば数字がそもそもないという問題がいっぱい出てきます。それから、いろいろなセクションがあっちを向いたり、こっちを向いたりしてやっているのをどう統合するかというのは、僕がかかわった中では上越市というところは、ともかく各部との縦割りがいけないんじゃないんだと。縦割りがちゃんと縦割りになっていないことが問題で、住民のところから市長まで全然意見が上ってこないような縦割りは縦割りではないという形で、縦割りを一方でやりながら、部長クラス、課長クラスで全部部局の横の会議を毎日やるわけです。そういうふうな縦と横をちゃんとやれば変わるということで、面白いことをやっていたけど、そういうことを含めて大きな自治体になればなるほど、あっちを向いたり、こっちを向いたりしたのが放置されたままになっているということがあります。

それをもっと合理的にするということも含めてやらなければ、なかなか今おっしゃってくださったことが簡単には解決できない。今回この文書をつくって、これをどう具体化していくかというためには、行政のあり方そのものをもう一遍見直さなければいけないんだということまで、少し嫌みではないですが、チクリと書いておくということはある意味いいのではないかという感じはします。

(団体推薦委員) ほかに用意してきた資料第26号ですが、今のことに関連しますので、そこだけかいつまんで説明したいと思います。

(会長) 簡単をお願いします。

(団体推薦委員) 今回、父母の間でこれまでの中間のまとめと、それから区民意見とアンケート結果を踏まえて、どういうふうに最終まとめに反映すべきなのかということを整理したものです。今のことに関連するところで、データ等は父母の力の及ぶ範囲で、文京区の人口統計などからいろいろ取ってみたり、どこに保育園が足りないのかというようなデータを、例えばめくっていただきますと、12 ページに「未就学児童の人口統計を！」とありますが、保育園と幼稚園、どこにどれだけいて、待機児童が何人いるかということを知りたいと。できればこの地域でどうということが起こっているのか知りたいというので、いくつか地図は付いていますけれども、例えば 20 ページに飛んでいただきますと、0 歳児人口がどこに多いのか、0 歳児を受け入れている保育園はどこにあるのかとプロットしていきますと、どうも足りないところがあるぞと。例えばその次の 21 ページをご覧くださいと、実は過去 2 年間で 0 歳児が増えているか所というのが南の方に集中しています。そこは意外と 0 歳児受け入れの保育園が手薄になっているということが見えてくる。

こういったデータを踏まえて、じゃあどうすべきなのかということ議論したらどうなのかということ。問題のレベルとして、25 ページに飛んでいただきたいのですが、区民の皆さんの意見にもあったのですが、大きな大局的な話と細かい施策がごちゃごちゃになっているというご指摘がありました。今回の事務局案の方では、かなりそれが整理されてきているのかなという気がします。

ただもう 1 つは、私が感じましたのは、時間軸です。緊急性が高くてすぐにでもやらなければいけないという問題と、将来に向けて取り組まなければいけない問題が切り分けられていないので、それをどうすべきかという議論をして、例えば問題が見えていて、解決方法も見える、施策も見えるというものは取り組むし、問題はあっても解決法が分からないというものは、これからまた議論しなければいけないというような、レベルを分けていく。先ほどの幼稚園問題も、すぐには解決できない。でも将来問題になるということは分かっている。そういうものを時間軸で切り分けていくということが大事ではないかと。

そういう議論をした後で、じゃあ最終の報告をどういうふうにまとめるのかといったときに、我々の中で 3 つの案が出ました。28 ページは、タイトルに採用していただいた「語りました！保育ビジョンについてのみんなの夢」。語っただけと、気が付いたら夢だったんだと、後で気が付いたと、こういうようなものもあるし、それからオプション 2 で、こういうデータを踏まえてちゃんともう 1 回やろうということは正論としてはあるのですが、時間切れでできない。じゃあどうするんだということで、オプション 3 としては、今年度はここまで議論しましたと。積み残し問題もまだあります。それは何で、今年議論した中で短期的に、緊急に対処すべき課題と、中長期で取り組んでいくべき課題と分けて、中長期問題については引き続き議論が必要なものは議論をしてくださいという形で、今年度分としてはまとめるというのでよろしいのではないかとことです。タイトルの「語りました！保育ビジョンについてのみんなの夢」というのは、非常に無責任な報告書になっていると…。

(会長) これは委員長権限でバツと。僕は自分で勝手に、「私たちの保育ビジョン」とか、そういうふうな形に変えてもらいたいということをおっしゃったのですが、何かこれではがくつとくるような、語りましたけれどもという。

それから今おうかがいして、最後の「保育ビジョン実現の推進に向けて」というところのさらに後に、私たちが短期間だったけれども集中して議論をしたときに、さまざまな判断の論拠

で、データが足りないということだとか、実は大変難しいんです。例えば誠之小学校などは100%中学入試を受ける学校ですけれども、圧倒的に越境がいるわけです。その越境の子どもたちは文京区民でないわけです。そうすると、何人子どもが文京区にいて、将来どうなるかということの正確な予測数は非常に出しづらい。

それから、さっき言った幼稚園の子どもというのは区外からいっぱい来ていますけれども、それについてつかんでいる行政がないということで、もしやるとしたら各幼稚園に丁寧に、区外何人ということ調べてということをやらなければいけない。本当はそれをしなければいけないんですが、それをやっていないということが、実はこういうことを考えるときの合理的な根拠を奪っているということで、ぜひこれからの行政のためには、そういうデータをきっちり集めるということをやっけて、共通の基盤で出発するような情報提供を行政はきちんとしていただきたいとか、そういうことについて見えてきたということを少し書いておこうかと思いました。いくつかの課題がここで見えてきましたということで。

それは、今後のためにということでもとめたらいいのかもしれませんが。そして、幼稚園などのことはなかなかしづらいということについても、早期に行政が上からイニシアチブを取って何とかしてほしいということも含めて。

ほかのところにとっても、もったもだなど思えるような形の、ものすごい手厳しい批判をしているのではなくて、そういう形の骨格で、最後にちょっと提案というか、見えてきた課題というか、そういうものを入れておいた方がいいのかもしれないと思って聞きました。

(団体推薦委員) 1点だけ、大変細かいこと、事実関係はいろいろあると思いますが、たぶん先生が今おっしゃられた誠之小学校の姿は、現実はどうかもしれませんけれども、ちょっと前の時期のものかもしれません。

(会長) そうですね。

(団体推薦委員) 今いろいろとそれなりに教育委員会も工夫をされているようですので、またそれはそれであるかもしれません。これは単なるコメントです。

それからもう1点、今の見えてきたところですが、確かに見えてきたということなのかもしれませんけれども…。

(会長) そう書かないとまずいでしょう。

(団体推薦委員) 我々としては、最初からそれは見えていたので。皆さんと一緒に再確認をさせていただいたところが事実だと思います。恐縮です。

(会長) 確かにオリジナリティはあると思うんですが、議員さんたちにもちゃんと読んでもらわなければいけないというのがありますので。

(団体推薦委員) 積み残しを書いていただいて、それをさらにどうするのかというところまで書いていただきたい。

(会長) これは諮問に対する回答ですので、ビジョンを出してくれと言われたので、あまりそれから越権してどんどん書いていくというわけには。そうすると今度は、こんな会はずくらないということになることもあると思いますので、その辺は微妙な政治判断をさせていただきたいということです。

(団体推薦委員) 政治判断抜きの文章を書きますので、政治判断でまとめてください。

(会長) ちょっと次回までに、2日までもしご意見があれば、またそういうプランをください。事務局との間で今日出た意見を少し反映した文章に書き直していただいて。ちょっと大変なんですけれども、3月2日にはできるだけ皆さんの今日のご意見を反映したようなものを出した

いと思います。

すみません、だいぶ時間をオーバーしてしまっただけですけれども、じゃあこれだけで。

(団体推薦委員) スケジュールだけ。引き延ばすつもりはまったくないんですけれども、これはこれで完結させるという目的のために走るのですが、やはり諮問をお願いした区長がお辞めになるということもあって、きっちりしたものをつくりたい。次につなげていただくようなことを書いておかなければ、うやむやにされてしまうという懸念が非常にあります。デッドラインというか、このもの自体をどうするのを、いつまでにやらなければいけないのでしょうか。庁議報告がいつで。

(保育課長) 具体的には2日でいただくことになっています。2日の前にということになると、皆さんにご検討いただく時間を取ってということになりますから。2日で、例えば事務局一任ということになれば、修文等はまた…。

(会長) 最終的に文章にするのはいつでしょうか。これはもういじれないという文章は。

(保育課長) 印刷製本を年度内にということで。

(会長) もちろんそうですね。10日前でしょうね、どうみても。

(団体推薦委員) あと、これをどういう形で発表するかですね。区報で出すのでしょうか。

(会長) それから、こういうのを何部ぐらいつくって…。

(団体推薦委員) それをまたいつ…。

(保育課長) これは冊子にしてお配りするということは、冒頭申し上げた通りですので。印刷のスケジュール等の関係、年度末になるとかなり印刷屋さんが混みますので、原稿を上げてということで何回かやりとりをしてということになろうかと思います。

(団体推薦委員) 普通は出納整理期間みたいなものがあるので、だいたい国の場合ですと、前年度のものは6月末までに印刷を終えていると前年度の経費になるのですが、区の場合は…。

(保育課長) それは支払いの関係なので、ちょっとこの議論とは。

(団体推薦委員) 印刷とおっしゃっていたので。文章の整理を別に年度を越えてする場合も多々ありますけれども。

(会長) なかなか難しいですね、今は。大学でも全然だめです。

(保育課長) 汐見先生の方にも、いろいろ忙しい中でこういった形で、本日も1度多くということをお願いをしている関係上、やはり3月中に発行ということで考えていますので、やはり2日でご確認をいただくということが一番今回の中ではスムーズに行くのかなと思っています。

(会長) 2日でだいたいここまでということで、あと微調整は事務局に任せていただくという形しかできませんかね。

(団体推薦委員) 微調整をお任せするというのはちょっと、メーリングリストで回していただいて確定を取るといいます。

(会長) もちろんメーリングリストでやるわけですが、それは。

(団体推薦委員) ちょっと微調整をお任せするわけにはいかないと思います。申し訳ないですけど、日本語の問題もありますので。

(団体推薦委員) 例えば2日の後、1週間後とかにもう1回というのは無理ですか。

(会長) それをやったら間に合わないと思います。それからまた書き替えるわけですから、実際は。かなり苦悶して書き替えておられるので、それはちょっと無理だと思います。

(団体推薦委員) 今日ここまで意見が出たから、2日でまとまるんじゃないですか。

(団体推薦委員) 次回に出たのを、あえて言えば資料として付けていただくというぐらいで。

(会長) 資料にはなるべく、こういう意見が出たということは正確に反映しておきたいと思いたしますので、また必要な資料、これはというのがあればまたご提案ください。

(公募委員) 5分ぐらい時間をいただけないでしょうか。参考資料を少し。

(会長) そうですね、申し訳ありませんでした。

(公募委員) すみません、定刻をすっかり過ぎているのに、さらにお時間をいただいて申し訳ないんですけれども、施策のための具体案の取り組み事例という参考資料の方を見ていただけますでしょうか。先ほども申し上げたように、皆さんたぶん思っていると思うんですけれども、たくさんの積み残しがあるままでこの委員会は終わることになると思うんです。というか、もうほぼ終わるんですけれども、私と深谷さんにご協力をいただいてというか、2人でタッグを組んで、いろいろな部署を今、回っています。今日も傍聴に来てくださっているんですけれども、ご近所のお母さんにもご協力をいただいて、子ども総勢何人も連れて行ってみたいと思っています。

一つ一つ駆け足で説明したいんですけれども、大川委員のところはこの間行ってきました。といいますのは、グループヒアリングの中で、文京区にはたくさん、品のある、とても上品なお年寄りがいっちゃって、そういった方々もいろいろな助言をくださるんですけれども、その一方で孤独なお母さんたちがいて、これがマッチングをしないんです。子育ての世代ギャップというのがありまして、昔はこれがよかれと思ったことが現代には通用してなくて、それがすごくもったいないなと思っていたんですけれども、これを思い切って大川さんに相談してみました。

実際、現代の子育てみたいなのを熟年層に向けてやっていただけないか、お願いしましたところ、大川さんの方から二つ返事でやりましょう。「子育て今昔物語」なんていうタイトルで入れましょうというふうに即答いただきました。これは1つ、マッチングできるような、解決できるものではないかと思ってとても楽しみにしています。

それから児童館の改善、これも先日畑山さんのところにうかがいまして、その後さらに、私の自宅の近くは水道端児童館になるんですけれども、こちらの館長、それから児童青少年課の係長の方にご同席いただいて、2回にわたってミーティングをさせていただきました。例えば児童館では毎日お昼を食べてはいけなくて、曜日が決まっているんですけれども、そういったことを変えていただけないかとか。ちょっと省略させていただいて、後でゆっくり見ていただければと思いますが、こういったことをお願いしてきました。

今日も朝、水道端児童館の大久保館長の方からお電話で回答をいただいたんですけれども、とても残念なことに、お願いしていることのいくつかは、ちょっと今は無理だというご回答をいただきました。逆にやりましょうと、例えば実態調査といいますか、満足度調査ですとか、そういうものを3月ぐらいをめどにやりたいというふうに畑山さんもおっしゃっていましたし、水道端児童館館長の大久保さんもその認識でいらっしゃいます。これも1つ成果ではないかというふうに思っています。

それから、水道端図書館の館長をお訪ねしました。水道端近辺、先ほどもご意見がありましたけれども、幼児がたくさんいるにもかかわらず、そういった施設ですとか支援がちょっと足りないというふうに私は思っているんですけれども、そんな中で幼児向けの読み聞かせですとか、英語の絵本の読み聞かせとか、それから会議室を貸していただくとか、そういったことをお願いにうかがいました。

結論から言いますと、とてもいいお返事をいただきまして、数か月以内に水道端図書館では乳幼児向けの絵本の読み聞かせの方をやりまして、館長からご回答の方をいただきました。孤独な

お母さんたちが閉塞感を感じて過ごしているのであれば、会議室はそういった有志のための読み聞かせのためになれば、無料で貸しますのではというふうに言っていただきました。

本当に私は何も肩書のない一区民なわけですけれども、意外と皆さん、すごく前向きに考えてくださって、すごく感じたのが、水道端図書館といい、大川さんといい、すごく、「よしじゃあ、みんながやろうと思っているなら、若い人たちがやろうと思っているんだったら、協力しようじゃないか、一肌脱ごうじゃないか」という心意気がすごくうれしくて、本当に行ってよかったなと、明るいニュースなんじゃないかと思っています。

まだまだ積み残しはありまして、シビックセンターの3階の一時預かり保育所、ここはやっぱり不満がいろいろあるんです。これも久住さんにご相談していきまして、改めて話し合いの場を設けていただくようにしています。

それから文京アカデミー、これはこの委員会の委員になる・から私が個人的にもう何度も、3回ぐらいアプローチをしているんですけれども、親子向けのイベントですとか、英語関係ですとか、母親のリフレッシュとか、そういった企画をお願いしているんですけれども、ことごとく断られています。行くたびに渋い顔をして、また来たかという顔をされるんですけれども、これはまた久住さんにご相談して、何とか絡んでいただこうと、もう段取りをつけています。すみません、久住さん。

先ほどの幼稚園の3年保育の不足解消なんですけれども、これはもう私たちがどうのこうの言えることではないというのも重々分かっているんですけれども、それでも何か足がかりが、何かきっかけができないかなと思っています。これはしぶとくまだ久住さんにご相談をするつもりです。結局どうして下さいという要望ではなくて、こんなふうな意見があるので少し考えていただけませんか、それだけでも1つ、大事な一歩ではないかと思っています。以上です。

(会長) ありがとうございます。そういう動きができるようになったというのも、1つのこの会の成果かもしれないですね。こういうことをどんどんやっていただきたいと思いました。

すみません、もう本当にずいぶん延長してしまいました。最後に、この報告書のサブタイトルについては、ちょっとこれは腰砕けではないかということがありまして、ぜひこういうサブタイトルにしたらどうか。「私たちの保育ビジョンの提案」というような形の、はっきりしてしまった方がいいのではないかとはいいますが、もしあればまたメールで寄せていただければと思います。

(団体推薦委員) このⅦについては、修正してほしいというのはいいと思うんですけど、いつまでとかは？

(会長) いつまでですか。事務局としてはなるべく早い方がいいですね。

(保育課長) 先ほどのご指摘については、回答していく中で事務局がそれはやりますということだったのかなと理解をしていたのですが、そこはちょっと確認を仕切っていただいた方がいいかなと。うやむやにしない方がいいと思います。

ちょっとお時間をいただかないと。かなり盛りだくさんのご提案もいただきましたので、28日の夜か、3月1日の午前中程度かなと思っていますので、なるべく早めに提案いただかないと。会長、副会長にもご提案申し上げて検討いただくということを大前提にしていますので、お忙しい中、年度末でご検討いただくことになりますから、早めにご提案をいただかないと、十分な検討がなされないまま言った、言わないということになりますから。

(会長) 今度はもうそういうふうにはいかないで、今日は最終的な。

(保育課長) 今回いろいろご提案いただいたので、それで事務局の中でまとめるという方向で

いけば、それで提案をいたしますし、そこに対して改めて盛り込むものを出すので、それを修文ということであれば、土曜日もしくは日曜日ぐらいまでには。今日は金曜日なので、日曜日いっぱいぐらいまでということで期限を切らせていただければと思っています。そうしなければ、たぶん事務局としても間に合わない、責任を持ってませんので、それ以降については事務局の方で作業をさせていただくということで、申し訳ないですけれども、そこは期限を切らせていただきます。

(団体推薦委員) ちょっとそれでいいかどうか。月曜日いっぱいまで伸ばしていただいて。

(保育課長) 責任を持ってません、そこまでは。

(会長) 月曜日というと何日？

(保育課長) 28日です。

(団体推薦委員) 火、水、木とあるんですよね。

(保育課長) 28日いっぱいということになれば、結局作業をするのは29日になるんですね。

(会長) 3月1日です。

(団体推薦委員) 月曜日は26日じゃないですか。

(保育課長) そうすると、実質的に作業が27、28日だけですので、その中で先生方に送らなければいけないということがありますから。

(団体推薦委員) 同時並行的に作業をしておけば。

(会長) できた部分だけどんどん個別に細かく送ってもらって。ちょっときついことはきついんですね。

(団体推薦委員) きついですよ、こっちだって土日でやれと言われたら、どこでやるかですよね。せめて月曜いっぱいぐらいもらえないですかね。

(副会長) こちらで2人で検討をする時間が、それだともうゼロになってしまうんです。26日ですよ、久住さんたちが…。

(団体推薦委員) 27、28日で…。

(副会長) 必死でやって。

(会長) 今回は文章の細かいのも全部チェックしようと思っていますので。

(副会長) 28日にうまく戻ってきても、検討は前日ですよ。そこから修正を入れて。

(団体推薦委員) 同時並行的にやっていけばいいじゃないですか。

(副会長) それは無理ですね。

(保育課長) 申し訳ないですけど。

(会長) なるべくがんばってもらいますけれども、書き直したものがそのまま出るわけではなくて、それをもう1回チェックしてというものしか出せませんので。

(保育課長) かなり大きな論点にはなると思うんです、そこについては。そうすると、やはりこの部分をどうするかというのは、私たちだけではなくてほかの皆さんへの責任という問題も出てきますので、そこは事務局と先生方だけではなく、皆さんのご提案ということに、私たちの保育ビジョンを提案しましょうということでいけば、なかなかそこは難しいと思います。

(団体推薦委員) じゃあ月曜日の午前中にしましょう。いいですか。

(会長) 26日。

(団体推薦委員) 午前中、いいですか。

(保育課長) 12時まで。

(団体推薦委員) お昼休みがあるから1時まで。よろしいですか。

(会長) では努力しましょう。それでは、どうも今日はありがとうございました。